

普通教育
兵式教練提要



301275-001-8

特71-692

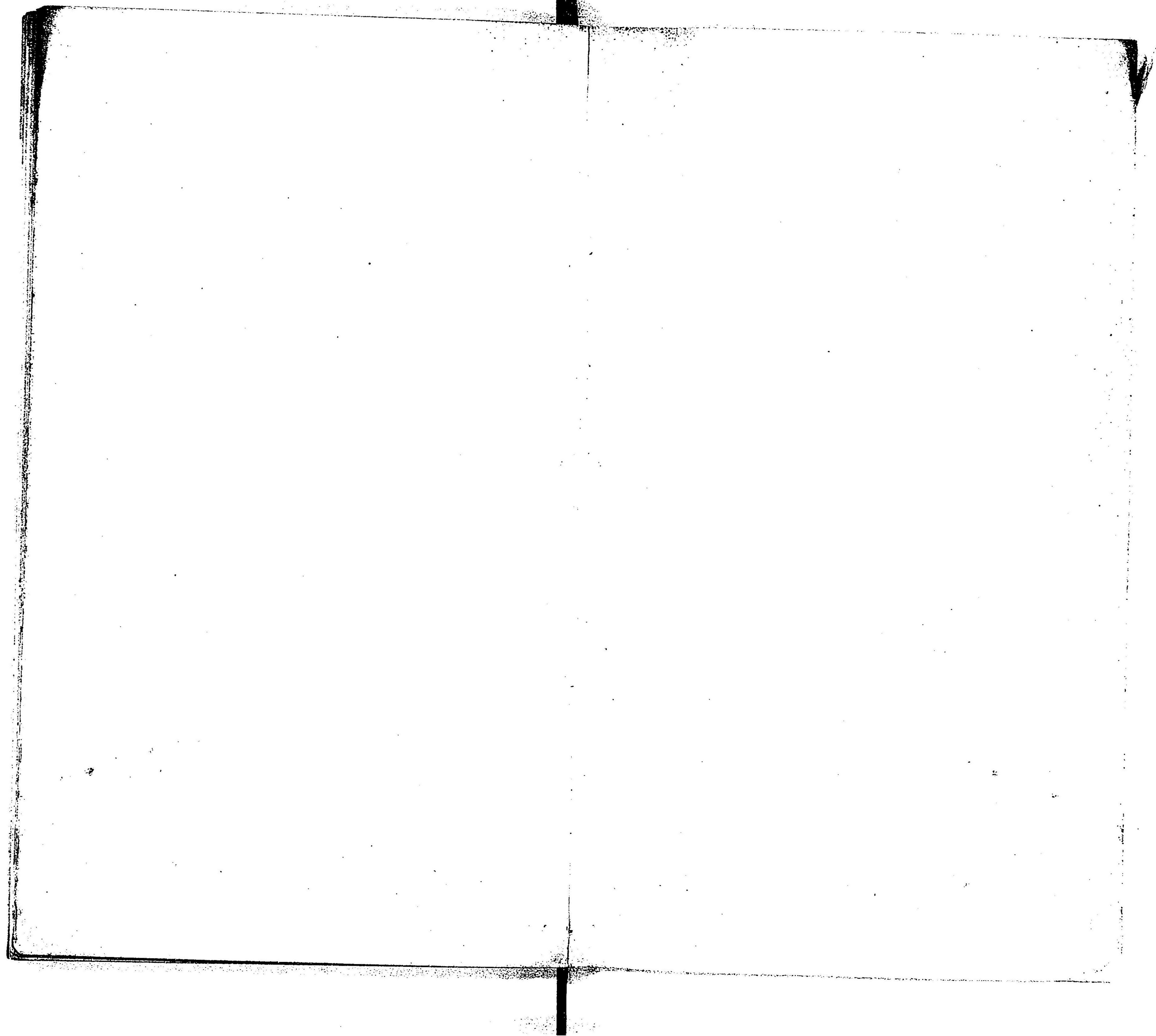
普通教育兵式教練提要

高野六郎／編

M44.6

BFA-0001





福岡縣小倉師範學校教諭

高野六郎編

普通教育 兵式教練提要

盛文館

明治 44. 6. 10 丙亥

特ク/
692

緒言

普通教育ニ於テ特ニ兵式教練ヲ課スル目的ハ兵役ニ服スル義務アルコトヲ知ラシムルト同時ニ之ニ對スル素地ヲ作り秩序ヲ守リ協同ヲ尙ビ困苦缺乏ニ耐フルノ習慣ヲ養ヒ剛毅沈著ニシテ義勇奉公ノ國家的觀念ヲ養成スルニアリ

方今學校ニ於ケル體操科ノ状態ヲ見ルニ彼等所謂普通體操及遊戲ノ研究ニ至リテハ日モ亦足ズトナスニ反シ兵式教練ノ研究ハ殆ド閑却シテ又々顧ミザルノ觀ナキ能ハズ而メ其甚シキニ至リテハ平時ニ於ケル數年ノ研

究ト幾萬ノ鮮血ヲ以テ購ヒ得タル戰時ノ實驗ト駁々止ムナキ兵器ノ進歩ノタメ改正セラレタル歩兵操典ノ精神那邊ニアルカハ勿論其ノ形式ノ改正要点ヲモ知ルニ由ナク今尙舊式ノ教練ヲ行ヒツツアルモノナキヲ保セズ是レ他ナシ一二適當ノ參考書ナキニ歸因スルナリ仍テ余ノ不肖ヲモ願ミズ先ヅ槐ヨリ始メヨトノ諺ニ則リ本書ヲ公ニスルコトトセリ本書ノ編纂固ヨリ雜駁敢テ完璧ナリト云フ能ハズ殊ニ余ノ淺學不才多少ノ失當遺漏アラシク讀者幸ニ之ヲ諒シ批正ノ勞ヲ惜マザランコトヲ

辛亥五月中浣

編者識

凡例

- 一 本書ハ中等程度諸學校生徒ノ研究ニ資シ兼テ小學校教師ノ教授資料タラシメン爲メ陸軍現行ノ歩兵操典及野外要務令、三十年式歩兵銃保存法、射擊教範、基本戰圖ノ諸書ヲ參酌シ簡明平易ヲ旨トシテ編纂セリ
- 二 教練中生徒ノ記憶ヲ容易ナラシメ且ツ研究ニ趣味ヲ得シメンタメ准士官ヲ豫備小隊長ニ、下士ヲ分隊長ニ、兵卒ハ生徒ニ改メ尙比較的複雑ナル隊形變換ノ了解ヲ容易ナラシムルタメ隊形ノ略圖ヲ附シ記明セリ
- 三 射擊學中銃ノ性能ヲ示スニ舊式連發銃ニ據リタルハ之レ現今學校ニ於テ使用スルハ多ク同式ノ銃ナレバナリ

四 書中圈點ヲ附シ又上欄ニ記シタル事項ハ研究ノ際特ニ注意スベキ件、又ハ教師ノ問語トナスヘキ點ヲ示シタルモノナリ

五 附録トシテ兵語ノ解ヲ記載シ且餘白ヲ存セシハ之レ兵語ハ教練中常ニ用フルモノニシテ之ニ通曉スルノ要アルヲ以テ、後者ハ体操時間ニ本書ヲ携帶スレバ別ニ筆記帳ヲ携帶スルノ要ナク爲メニ不便ト煩雜トノ感ヲ些カラシメン爲ナリ

一般ノ要件

一 兵式体操ノ目的ハ身心ヲ鍛鍊スルト同時ニ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養ヒ併セテ軍事ノ智識ヲ得シムルニ在リ故ニ務メテ嚴格ニ行フニ非サレバ此ノ目的ヲ達スルコト能ハズ

二 兵式教練ノ目的前記ノ如クナルヲ以テ軍隊ノ操練トハ聊カ其

ノ趣ヲ異ニス而メ各生徒ハ或ハ下士トナリ或ハ將校トナリ部隊ヲ指揮號令スルコトヲ練習セザルベカラズ

三 號令ハ何レノ場合ヲ問ハス同一ノ方法及活音ヲ以テ下スヲ要ス號令活潑ナルトキハ隨ヒテ動作ヲ活潑ナラシム而シテ豫令ト動令トニ分ツベキ號令ハ豫令ヲ明瞭ニ長ク、動令ヲ活潑ニ短ク發唱シ其ノ間ニ適當ナル時間ヲ存スベシ

四 教師又ハ小隊長以上ノ幹部ハ行進或ハ停止ヲ指示スルニ刀或ハ手ヲ以テ記號ヲ與フルコトヲ得即チ行進ニハ高ク之ヲ舉ゲ停止ニハ之ヲ舉ゲテ直ニ下ス

又小笛ヲ以テ射撃ノ中止ノ號令ニ換ヘ又射撃ヲ行ハザル時ニ限リ爾後ノ教示ヲ與フル爲メ部下ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得ベ

シ

五 教練ハ敢テ外形ノ整一ノミヲ希圖スルモノニ非スト雖然モ順序正シク之ヲ行ヒ其要領ヲ會得スルニ到レバ自ラ外形ノ整一ヲ得且其結果モ又良好ナルモノトス故ニ習熟ヲ以テ第一ノ要件トナスベシ

教授ノ要件

- 一 兵式教練ハ戰鬪演習ナリ、規律的運動ナリ苟モ之ヲ行フニ方リ教師ハ眞ノ戰鬪ニ於ケルガ如ク實施ラスルヲ要ス、之レガタメ時々假設若シクハ實員ノ敵或ハ對抗ノ演習ヲナスハ最モ價値アルモノトス
- 二 同一演習ヲ長ク行フキハ生徒ノ精神ヲ倦怠セシメ身體ノ疲勞

ヲ招クモノトス故ニ演習ヲ交換シ且ツ時間方法等ハ生徒ノ能力及體力ニ適スル如ク配合スルヲ要ス然ラザレハ避ク可カラザル怠慢ニ陥リ秩序ヲ亂スニ到ル

三 密集教練ノ前後ニ於テ徒手体操及呼吸法ヲ行ヒ身體不時ノ變動ヲ防止スルヲ可トス

四 運動場ニ於テモ尙ホ教場ニ於ケル如ク授業ノ初メ及終リニハ教師ニ對シテ敬禮ヲ行ハシムルヲ可トス

五 教育ノ結果ハ實行嚴格ノ程度ニ比例ス、故ニ教師ハ熱心茲ニ注意シ且ツ生徒ヲシテ兵式教練ノ目的ヲ知ラシムルト同時ニ自ラ好ムノ念ヲ生ゼシメンコトヲ勉ムベシ

普通教育

兵式教練提要

目次

第一編 教練	一
第一章 各個教練	一
徒手教練	一
集 合	三
解 散	四
不動ノ姿勢	四
休 憩	六
右(左)向、半右(左)右向及後向	七

行進	八
速歩	九
步調止メ歩調取レ	一一
停止	一二
足踏	一三
行進間右(左)向	一四
斜行進	一四
行進間後向	一五
駈歩	一七
折敷及伏セ	一九
執銃教練	一九

立銃ニ於ケル不動ノ姿勢	二〇
立銃ニ於ケル休憩	二一
立銃ヨリ擔銃	二二
擔銃ヨリ立銃	二三
捧グ銃	二四
銃劍ノ著脱	二五
著劍	二六
脱劍	二七
裝填	二八
彈藥ノ抽出	三〇
射撃	三一

立射	三二
膝射	三三
伏射	三三
射撃ノ中止及止メ	三四
狙ヒ方及撃方	三五
行進	三六
行進中ノ折敷及同上ヨリ起立及前進	三七
突撃	三八
散兵	三九
散兵ノ行進及停止	四〇
散兵ヲ前進、退却セシムル號令	四一

散兵ノ嚴守スベキ要件	四二
散兵ノ射撃	四三
第二章 部隊教練	四四
分隊教練	四四
編成	四四
整頓	四六
小隊教練	四九
編成	五〇
整頓	五一
小隊ノ後向	五三
擔銃及立銃、捧銃并ニ銃劍ノ著脱	五四

裝填及抽出	五四
又銃及解銃	五四
射擊	五七
右(左)向	六〇
行進	六一
横隊ノ正面行進及背面行進	六二
斜行進	六三
突擊	六四
停止	六四
方向ヲ換へ	六五
側面行進	六七

側面行進間伍ノ分解及重復	六八
伍々方向ヲ換へ	六九
停止及正面向	七〇
行進間右(左)向	七一
側面縦隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ル	七二
横隊ヨリ同方向ニ側面縦隊ニ移ル	七三
二列ヨリ一列ニ、一列ヨリ二列ニ移ル	七三
途歩	七五
解レ及集レ	七六
散開	七七
散兵線ノ運動	七九

集合及併合	七九
中隊教練	八一
密集教練	八二
編成	八二
隊形	八三
整頓	八四
擔銃捧銃、銃劍ノ著脱、裝填及抽出	八五
射擊	八五
右(左)向及後向	八六
行進	八六
方向ヲ換へ	八七

隊形變換	九一
中隊縱隊ヨリ橫隊ヲ作ル	九二
橫隊ヨリ中隊縱隊ヲ作ル	九三
側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊ノ橫隊ヲ作ル	九五
側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ル	九六
側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ヲ作ル	九七
突擊及追擊	九八
途步、又銃及解銃	九九
散開隊形	一〇〇
散兵	一〇〇
散兵線ノ構成	一〇一

散兵線ノ運動 一〇二

散兵線ノ射撃 一〇五

援 隊 一〇六

散兵線ノ増加 一〇七

中隊ノ特性及一般ノ戦闘法則 一〇八

戦闘ニ於ケル幹部ノ責任 一一二

戦闘間兵卒ノ心得 一一五

第二編 銃及射撃學 一二七

第一章 銃 一二七

銃ノ名稱 一二七

銃ノ分解及結合順序 一三三

銃ノ拭淨法 一二五

第二章 射 撃 一二八

彈道及照準 一二九

定 義 一二九

彈道ノ形狀 一三一

照 準 一三四

射撃ノ性能 一三五

一般ノ性能 一三五

偏 避 一三六

彈丸ノ散布 一四〇

村田連發銃ノ性能 一四二

射擊ノ實施	一四四
距離測量	一四九
步測	一五〇
目測	一五二
音響測量	一五四
第三編 野外勤務	一五五
第一章 命令及報告	一五五
種類	一五五
記載方	一五六
略圖	一五九
傳達ノ方法	一六〇

第二章 行軍	一六二
總說	一六二
種類	一六四
行進速度	一六四
行軍ノ實施	一六七
行軍ノ警戒	一六九
要領	一六九
前衛	一七〇
前衛ト本隊トノ距離及區分	一七一
側衛	一七六
後衛	一七八

第三章 駐軍……………一八〇

宿營……………一八〇

駐軍ノ警戒……………一八一

要領……………一八二

前哨……………一八四

通則……………一八四

前哨本隊……………一八五

前哨中隊……………一八六

小哨……………一八七

獨立下士哨……………一九二

下士哨……………一九三

目次終

小哨及獨立下士哨ノ交代……………一九三

第四章 步哨勤務……………一九四

第五章 斥候勤務……………二〇一

方位ノ考察……………二二二

徵候……………二二四

附錄 兵語ノ解……………二二八

普通兵式教練提要

高野六郎編

第一編 教練

第一章 各個教練

徒手教練

各個教練トハ各人ノ武技ヲ訓練スルノ謂ニシテ其ノ期スル所ハ諸制式ニ熟セシメ、併テ秩序及服従心即チ規律ヲ養ヒ以テ部隊教練ノ基礎ヲ作ルニアリ、故ニ綿密ニ意ヲ

用ヒ充分嚴格ニ教授スルヲ要ス、各個教練完全ナルニ非レバ部隊教練ノ正格ヲ期スルコト能ハズ
世人稍モスレバ各個教練ノ不完全ヲ部隊教練ニ於テ補ハントナシ、直ニ部隊教練ニ移ルガ如キハ誤レルモ又タ甚シキモノト云フベシ。若シ部隊教練ニ於テ列中ニ不完全ナルモノ多キ場合一一之ヲ矯正センカ其ノ教練ハ常ニ喧噪ヲ極メ時間ヲ徒費シ他ノ良好ナルモノニ倦退ノ念ヲ起サシメ且ツ生徒ハ之ヲ常事トナシ遂ニハ規律的教練ノ價値ヲ損スルニ至ルベシ
要ハ訓練ノ經過急速ナラズ又タ復習ヲ厭ハズ生徒ヲシテ充分ニ熟セシムルニアリ

集 合

運動場ニアル生徒ヲ集ムルニハ右手ヲ上ゲテ左ノ號令ヲ下ス

片手ヲ場ノ一列横隊に集れ 又ハ

一(二) 歩距離ノ一列側面縦隊に集れ

右ノ號令ニテ横隊ニアリテハ一番生、縦隊ニアリアハ先頭生ハ號令者ノ六歩前ニ面シテ立ツ、其ノ他ノ者ハ横隊ニアリテハ右手ヲ伸シテ隣生ノ左肩ニ接シテ整列シ、縦隊ニアリテハ前生ヨリ一(二) 歩ノ距離ヲ取り正シク前生ニ重ルベシ

解散

集ルル生徒ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解れ 進め

進メノ動令ニテ隨意解散ス

演習ノ終リニ於テ解散セシムルハ帽ヲ脱スル事ナク
體ノ上部ヲ少シク前方ニ傾ケ教師ニ注目シ敬意ヲ表サ
シムル如クスベシ

不動ノ姿勢

不動ノ姿勢ハ規律的體操ノ基礎ナリ、若シ不動ノ姿勢ニ
シテ不良ナラムカ縦ヒ他ノ動作如何ニ巧妙ナルモ取ルニ

足ルベキモノナシ殊ニ邦人ノ如ク身體姿勢優美ナルモノ
些キニ於テ然リトス

不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣を著け

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ着ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ
齊シク外方ニ向ケ兩膝ハ凝ラヌシテ伸シ、上體ヲ正シク
腰ノ上ニ落チ著ケ尙ホ少シク前へ傾ケ兩肩ヲ稍々後ロニ
(故ラニ張ルコトナク)引キ兩臂ハ之ヲ自然ニ垂レ掌ヲ股
ニ接シ指ハ輕ク伸シテ之ヲ竝ベ中指ヲ袴ノ縫目ノ後ニ當
テ頸ヲ直ニ頭ヲ正シク保チ眼ヲ充分開キ少シク高ク前方
ヲ直視ス

生徒ノ誤リ易キ點ハ左足ヲ開キ過ギ延ヒテ左肩ヲ後退スルニアリ之ヲ矯正セザルトキハ整頓ヲナスニ至リ大ナル不都合ヲ來スヲ以テ注意スベキナリ

休憩

不動ノ姿勢ノトキ休憩セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休め

右ノ號令ニテ初メ左足ヲ出シ姿勢ニ意ヲ止ムル事ナク其ノ場ニ立チテ休憩ス爾後足ヲ交換スル時ハ片足ヲ元ノ所ニ置キテ片足ヲ出ス
休憩中ト雖モ談話スルヲ許サズ

小學校(殊ニ幼年級)ニ於テ適當ノ時ニ特ニ許可ヲ與ヘ談話ヲナサシムルハ許可ナキ場合ハ談話ヲナスヲ得ザルモノトノ念ヲ確實ナラシムルヲ得ムカ

右(左)向 半右(左)向及後向

右又ハ左、或ハ半右又ハ半左向ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右向 右 又ハ 左向 左

半右向 右 又ハ 半左向 左

右(左)ノ動令ニテ左足尖ト右足尖トヲ少シク上ゲ約九十度又ハ其ノ半右或ハ左ニ向キ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線

上ニ揃フ

後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

、廻れ 右

動令ニテ右足ヲ其ノ方向ニ後ニ引キ足尖ヲ些シク左踵ヨリ離シ、両足尖ヲ少シク上ゲ、両踵ニテ後ロニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

凡テ右(左)向及後向ヲナストキハ上體及頭部ハ自然ニ足ノ運動ニ伴フ

行 進

凡ソ數多ノ生徒ヲシテ號令ノ下ニ規律的ニ行進ヲナサシ

メムト欲セバ、先ヅ齊一ナル動作ヲ望マザル可ラズ、殊ニ横隊行進ニ於テハ各生歩幅ヲ規定シ、同一ノ歩法ヲ以テセザレバ、隊列終始動搖シテ不整頓トナリ生徒ヲシテ不快ノ念ヲ起サシメ終ニハ嫌厭タラシムルニ至ルベシ尙ホ行進ヲナスニ當リテハ威嚴ヲ保チ勇往邁進ノ氣象ヲ現ハサザル可カラズ

速 步

速歩ニ於テハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マデ七十五珊米(凡ソ二尺四寸)トシ其ノ速度ハ一分時間ニ百四十步其ノ行程約八十六米ナリ

但シ右ハ軍隊ニ於ケル規定ニシテ學校ニ於テハ生徒ノ
年齢其ノ他ノ關係ヨリ多少ノ斟酌ヲ要スベキモノトス
速歩行進ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩へ 進め

左脚ヲ少シク上ゲ脚ヲ前方ニ出シ足尖ハ僅ニ外ニ向ケ上
體ヲ少シク前ニ傾ケ右足ヨリ七十五珊米ノ所ニ脚ヲ伸シ
ツツ故ヲニ地面ヲ敲クコトナク踏著ケ同時ニ膕ヲ地面ノ
方ニ壓シテ伸シ此ノ時體重ヲ全ク踏著ケタル足ニ移ス、
左脚ヲ踏著クルト同時ニ右踵ヲ地ヨリ離シ左脚ニ於テノ
説明ト同要領ニテ右脚ヲ前ニ踏著ケ行進ヲ續行シ、兩脚
ヲ交叉スルコトナク膝ヲ必要ヨリ高く上グルコトナク兩

肩ヲ廻スコトナク頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ハ自然ニ振動ス

歩調止メ及歩調取レ

速歩行進中行進ヲ容易ナラシムルタメ左ノ號令ヲ下ス

歩調止め

止メニテ正規ノ歩法ヲ守ルコトナキモ歩長ト速度ト姿勢
ヲ崩スコトナク行進ス

再ビ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調取れ

右ノ號令ニテ正規ノ歩法ニ移ル

停止

行進シツ、アル生徒ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊 止め

止レノ動令ニテ後ノ足ヲ前ノ足ニ引キ著テ止ル而シテ停止セシトキハ直ニ足尖ヲ約六十度ニ開ク

足踏

足踏ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

足踏 進め

進メノ動令ニテ行進スルコトナク（行進中ニテモ同様）少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ踏著ケテ調子ヲ取ル、此ノ時更ラニ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス動令ハ通常左足

ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

歩へ 進め

進メノ動令ニテ次ノ左足ヨリ踏出シ續キテ行進ス

行進間右(左)向

行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス、動令ハ通常右(左)足ノ地ニ著カムトスル時ニ下ス

右(左)向け歩へ 進め

右向ケノ時左足ヲ、左向ケノ時ハ右足ヲ前ニ踏著ケ其ノ足尖ニテ體ヲ新方向ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ヲナス

斜行進

停止間ヨリ斜行進ヲ起スニハ先ツ半右又ハ半左向ヲナシ
 左足ヨリ新方向ニ行進ス、行進間ニアリテハ左(右)足
 ヲ前ニ踏著ケ其ノ足尖ニテ半右又ハ半左方ニ體ヲ向ケ右
 又ハ左足ヨリ新方向ニ行進ス、號令左ノ如シ

斜に右(又は左)へ 進め

再ビ直行進ニ復セシムルニハ斜行進ヲ起シタル反對ノ方
 向へ更ラニ斜行進ヲ爲サシム號令及要領相同ジ

行進間後向

行進間後向ヲ爲シ直ニ停止セシムルニハ

廻れ右へ 止れ

停止スルコトナク行進ヲ續行セシムルニハ

廻れ右をへ 進め

ノ號令ヲ下ス

動令ニテ左足ヲ前ニ踏著ケ其ノ足尖ニテ後向ニ廻ハリ右
 足ヲ左足ニ引著ケ其ノ儘止ルカ或ハ行進ヲ爲ス、動令ハ
 通常右足ノ地ニ著カムトスル時ニ下ス

駈歩

駈歩ハ軍隊正規ノ歩長ヲ八十五珊米トシ其ノ速度ハ一分
 時間ニ百七十歩ヲ基準トス其ノ號令左ノ如シ

遊歩 進め

遊歩ノ豫令ニテ両手ヲ握リ腰ノ高サニ上ゲ肘ヲ後ロニス
進メノ動令ニテ両脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ゲ左足
尖ヲ前ニ出シ足尖ヨリ下ロシテ右足ヨリ八十五珊米ノ所
ニ踏著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ行進ヲ續
ク而シテ常ニ體重ヲ踏著ケタル足ニ移シ兩肘ヲ自然ニ前
後へ振りツ、行進ス

遊歩ニアルヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊 止め

動令ニテ更ラニ二步前進シタル後速歩ノ時ト同要領ニテ
停止シ兩手ヲ下ロス

駈步行進中速步行進ニ移スニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩 進め

進メノ動令ニテ更ラニ二步前進シ後速歩ニ移リ兩手ヲ下
ロシ續キテ行進ス

尙駈步行進間ノ諸動作ハ後向ヲナスニハ二步前進シタル
後行ヒ、又足踏、右(左)向斜行進ヲナスニハ通常速歩
ニ於ケルヨリ一步前ニ動令ヲ下スノ外總テ速歩間ニ於ケ
ル要領ニ準ジテ行フモノトス

折敷ケ及伏セ

行進ヲナシツ、アル時折敷ケヲナサシムルニハ左ノ號令

ヲ下ス

折返け

號令ニテ左足ヲ前ニ踏出シ右脚ヲ地ニ著ケ右手ヲ右股ノ上ニ、左手ヲ左股ノ上ニ置ク、停止間ニアリテモ又タ之ニ準ズ

伏セヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

伏せ

號令ヲ以テ半右向ヲナシ其ノ方向ニ於テ兩膝ト左手トヲ地ニ著ケテ伏臥シ右手ヲ左手ノ上ニ置ク、行進間ニ於テハ一旦停止シ同上要領ヲ以テス

折敷ケ及ビ伏セノ姿勢ニアルトキ起タシムルニハ左ノ號

令ヲ下ス

起て 又ハ 考へ

折敷ケニアリテハ起チ右足ヲ左足ニ引キ著ケ、伏セニアリテハ其ノ姿勢ヲ取リタル時ト概テ反對ノ順序ヲ以テ起チ舊方向ニ復ス

行進ヲナスニハ前ヘノ次ニ進メノ動令ヲ下ス

執銃教練

執銃教練ハ略ボ徒手教練ニ熟シタル後始メテ行フモノトス、而シテ此ノ教練ノ當初武器ノ種類及保存法ノ大要ヲ説明スルヲ要ス

立銃ニ於ケル不動ノ姿勢

立銃ニアルトキ不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

先を著け

徒手教練ニ於テ述ベタルガ如ク不動ノ姿勢ヲ取リ右手ヲ以テ銃ヲ握ル而シテ其ノ方法ハ腕關節ヲ自然ノマ、ニ保持シ銃身ヲ拇指ト食指トノ間ニ置キ其他ノ指ハ共ニ閉ヂ輕ク屈メテ銃床ニ添ヘ銃口ハ右臂ヨリ一握リ程隔テ、銃身ヲ後口ニシ床尾踵ヲ右足尖ノ傍ニ置キテ垂直ニ保ツ、注意スベキハ右拳ヲ真直ニスルニアリ之レ右臂ヲ張レバ

右拳ハ左方ニ向キ易ク從ヒテ床嘴多クハ左ニ偏スレバナリ

立銃ニ於ケル休憩

立銃ニ於ケル休憩ハ徒手教練ニ於ケルト同要領ニシテ唯照星ヲ擦ラザル如ク銃ヲ保ツベシ

以下本文中ニ示サザル諸動作ハ總テ徒手教練ニ於ケルト同要領ヲ以テ施行スルモノトス

立銃ヨリ擔銃ニ擔ヘ銃

立銃ヨリ擔銃ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
擔ヘ銃

- 一 右手ヲ以テ銃ヲ上ゲ拳ヲ概子肩ノ高サニシ銃身ヲ右ニシテ垂直ニシ同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ下ケテ輕ク體ニ接ス
- 二 左手ヲ以テ少シク銃ヲ上ゲ銃身ヲ半前方ニ向ケ右手ヲ伸シテ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク如ク床尾ヲ握ル
- 三 右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニシ左手ヲ遊庭ノ上ニ置キ右肘ハ輕ク體ニ接シ床尾ノ環ヲ體ヨリ一握程離シ銃ハ上衣ノ釦ノ線ト平行セシメ槓桿ノ高サヲ概子其ノ第一、第二釦ノ中央ニス
- 四 左手ヲ下ロス

擔銃ヨリ立銃

擔へ銃ヨリ立銃ヲナサシムルニハ左ノ令ヲ下ス
 立て 銃

- 一 右手ヲ伸シテ銃ヲ下ゲ銃身ヲ半右ノ方ニ向ケ之ヲ垂直ニシ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ肘ヲ下ケテ輕ク體ニ接ス
- 二 左手ヲ以テ銃ヲ下ゲ銃身ヲ右ニシ右手ヲ以テ木被部ノ中央部ヲ握ル
- 三 銃身ヲ後ロニシ小指ヲ木被部ノ上ニ當テ、之ヲ右腰ニ支へ同時ニ左手ヲ下ス
- 四 靜カニ銃ヲ地上ニ下ロス

捧銃

操典ニハ銃ノ操法ナル名稱ヲ廢セラレ捧銃ハ禮式トシテ第三部ニ移サレアルモ本書ニハ便宜上此ニ記シタリ立銃ヨリ捧銃ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

捧銃

- 一 右手ヲ以テ銃ヲ上ダ體ノ中央前ニ持來シ銃身ヲ後ニシ之ヲ眞直ニス同時ニ左手ヲ以テ銃ヲ握リ食指ヲ木被部下端ト齊シクシ拇指ヲ銃床ニ沿フテ伸バシ前臂ヲ輕ク體ニ著ケ殆ド之ヲ水平ニス
- 二 右手ヲ以テ輕ク銃把ヲ握ル

捧ダ銃ヨリ立銃ヲ爲スニハ左ノ號令ヲ下ス

立て 銃

- 一 右手ニテ木被部ノ中央ヲ握リ右肘ヲ輕ク體ニ接ス
- 二 右手ヲ以テ銃ヲ下ダ右腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下ス
- 三 銃ヲ輕ク地上ニ置ク

銃劍ノ著脱

銃劍ノ著脱ハ停止、行進間其他如何ナル姿勢ニ在リテモ之ヲ行フ停止間ニ於テハ立射、膝射、伏射、折敷、伏セ中ハ著劍又タ行進間ニ在リテハ擔銃及提銃ヨリノ著劍及速歩駈歩間ノ著劍等ニシテ規定ノ要項ニ背カサル範圍ニ

於テ可及的迅速ニ行フヲ主旨トス、各人ノ動作ヲ正確ニ一致スルヲ要セズ

著 劍

著劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

著け劍

立銃ニアル時ハ右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ銃身ヲ少シク右ニシ銃口ヲ概子體ノ中央ニシ左手ヲ以テ逆ニ銃劍ノ柄ヲ持チ銃劍ヲ抜キテ確實ニ銃口ノ所ニ著ケ両手ヲ以テ銃ヲ起シ立銃ニ復ス
擔銃ニアル時ハ立銃ノ第一動ヲナシ右手ヲ放チテ上帶ノ

下ヲ握リ同時ニ銃ヲ下ゲ銃身ヲ右ニシ左手ヲ放チテ劍ヲ抜キ確實ニ裝著ス、而テ擔銃ニ復スルニハ右手ヲ高く上ゲ同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ右手ヲ放チテ床尾鉞ヲ握リ銃ヲ右肩ニ擔フ
他ノ姿勢ニアルトキモ略之ニ準ジテ行フモノトス

脱 劍

脱劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

脱れ劍

立銃ニ在ル時ハ右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ左手ニテ銃劍ノ柄ヲ握リ右手ヲ上ゲ其ノ拇指ニテ駐筒ヲ押シ左手ニテ銃

劍ヲ脱レ之ヲ右方ニ倒シテ劍尖ヲ下ニシ右手ノ食指中指
 ト拇指トニテ及ヲ狭ミ持チ其ノ餘ノ指ニテ銃ヲ保チ左手
 ヲ翻シテ柄ヲ握リ銃劍ヲ全ク鞆ニ納メ左手ヲ以テ右手ノ
 下ヲ握リ右手ヲ下ゲテ木被部ヲ握リ両手ヲ以テ銃ヲ起シ
 舊姿勢ニ復ス又タ擔銃ニアルトキハ立銃ノ第一動ヲナシ
 右手ヲ放チテ上帶ノ下ヲ握リ同時ニ銃ヲ下ゲ左手ヲ放チ
 テ劍柄ヲ握リ右手ノ拇指ニテ劍柄ノ駐筒ヲ押シ左手ニテ
 銃劍ヲ脱ス其ノ他ハ停止間ニ於ケルト同要領ニテ行フ

裝 填

裝填ハ屢々教習シテ熟達セシムルヲ要ス、之レ確實且ツ

迅速ニ行フヲ要スレバナリ

充銃ヨリ裝填セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

釋索を込め

半右向ヲナシ同時ニ右足ヲ新線上右方へ概子半歩ノ所ニ
 踏ミ右手ヲ以テ銃ヲ上ゲツ、前ニ倒シ左手ヲ以テ概子銃
 ノ重點ヲ握リ其ノ指ハ縦溝内ニ置キ銃口ヲ眼ノ高サニナ
 シ銃把ヲ右乳ヨリ少シク下ゲ床尾ヲ體ニ接ス
 右手ヲ以テ槓桿ヲ握リ爪ヲ上ニシ右臂ハ輕ク銃床ノ外面
 ニ接ス、槓桿ヲ起シテ稍強ク之ヲ後方ニ引ク
 注目シツ、右手ヲ彈藥盒ニ入レ插彈子ヲ撮ミ彈頭ヲ前ニ
 シテ垂直ニ插彈子溝ニ嵌入シ拇指頭ヲ彈藥頭ノ後部ニ當

テ上ヨリ之ヲ壓シ彈倉ニ送入ス
 迅速ニ遊底ヲ進メ確實ニ槓杆ヲ右方ニ倒シ、右手ノ食指
 ヲ以テ副鐵鈎ヲ稍々後方ニ引キ右方ニ廻シ靜カニ擊莖ヲ
 進メ擊鏡ヲ安靜段ニ鈎ケ安全裝置ニシ木被ノ所ヲ握リ舊
 方面ニ向キツ、右足ヲ左足ニ引キ著ケ立銃ヲナス
 尙若シ彈藥盒一個ナルトキハ銃ヲ構ヘタル後右手ヲ以テ
 背後ヨリ右前ニ廻ス

彈藥ノ抽出

銃ニ裝填シアルトキ彈藥ヲ抽出サシムルニハ左ノ號令ヲ
 下ス

釋索を極け

裝填スルトキト同一ノ姿勢ヲ取り擊鏡ヲ擊發段ニ致シ槓
 杆ヲ起シ徐ニ之ヲ進退シテ彈藥ヲ出シ彈藥盒ニ入レ左手
 ヲ用心金ニ近ケテ中指ト無名指トニテ受筒板ヲ壓シ藥室
 ヲ閉ヂ擊鏡ヲ下ロシ然ル後立銃ヲナス

射擊

射擊姿勢ニ三種アリ立射、膝射、伏射之ナリ

立射

立銃ニアルトキ立射ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ
 下ス

立射の格へ 銃

装填ニ於ケルガ如ク銃ヲ構へ撃銃ヲ擊發段ニ致シ、右手ヲ以テ銃把ヲ握リ食指ヲ用心鏡ノ内ニ入レ之ヲ伸シ装填シアラザルトキハ装填ヲナスモノトス

注意立射ニ於テハ先ヅ左右両足尖ノ成ス角度九十度ヲ超ヘザルニ注意スベシ之レ右足尖ヲ開キ過グレバ右肩ハタメニ後退シ据銃確ラザルニ至ル次ニ體重ヲ両脚ニ托スルモノトス

膝射 ヒサ ウチ

立銃ヨリ膝射ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

膝射の格へ 銃

半右向ヲナシツ、右足尖ヲ左足ノ延線上其ノ踵ヨリ半歩後口へ引キ左手ヲ以テ劍鞘ヲ前方ニ拂ヒ右足ヲ左足ノ方向ト直角ナル如ク平ニ地ニ著ケ臀ヲ右足ニ載セ左脚ヲ立ツ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ左手ヲ以テ立射ノ時ノ如ク保チ其ノ前臂ヲ左膝ノ上ニ置キ床尾鉞ヲ右股ノ内部ニ當テ次ニ右手ヲ以テ銃把ヲ握リ上體ヲ自然ノ方向ニ保ツ

伏射 チ ウチ

立銃ヨリ伏射ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

伏射の格へ 銃

左手ヲ以テ彈藥盒ヲ左右ニ（一個ナラバ右前ニ移シ）開キツ、半右向ヲナシ床尾ヲ前方約一步ノ所ニ出シ其ノ方向ニ於テ兩膝ヲ地ニ著ケ左手ヲ兩膝ノ前ニ出シ地ニ著ケ上體ヲ射擊スベキ方向ニ約三十度ノ角ヲ成ス如ク伏臥シ立射ニ於ケル如ク銃ヲ保チ銃把ヲ腮ノ稍々前ニ在ル如クシ肘ヲ地ニ支フ何レノ姿勢ニアリテモ頭ヲ舊方向ニ保ツ事其ノ他ノ注意ハ立射ノ場合ト同ジ

射擊中止及止メ

射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

撃方待て

銃ヲ構へ次發ノ用意ヲナス

射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

撃方止め

擊鉄ヲ安靜段ニ鉤ケ、表尺ヲ倒チ立銃ヲナス

狙ヒ方及撃方

狙へハ號令ニテ銃ヲ肩ニ接スルニハ兩手ヲ以テ體ニ近ク銃ヲ上ゲ主トシテ床尾鉞ヲ肩ニ壓著シ同時ニ左肘ヲ下ゲ右肘ヲ殆ド肩ト等シクシ床尾鉞ヲ肩ノ凹部ニ當テ床尾

ヲ頬ニ密着セシメテ銃ヲ保持ス
 撃てノ號令ニテ引金ヲ壓シ發射シ直ニ銃ヲ元ノ如ク構
 へ次發ノ用意ヲナス又タ彈倉ノ彈藥ヲ全ク射盡シタル時
 ハ更ニ裝填ヲナスモノトス
 引金ヲ壓スルニハ先ヅ食指ノ第二節ノ所ヲ引金ニ鈎シテ
 壓スベシ

行 進

執銃ニテ速步行進ヲナスニハ「進め」ノ動令ニテ銃ヲ擔
 ヒツツ行進ヲ始メ行進中ニ左臂ヲ自然ニ振動ス「止れ」
 ノ號令ニテ停止シ立銃ヲナス

駈歩ヲナスニハ「茲歩」ノ豫令ニテ銃ヲ擔ヒ劍鞘ヲ握リ
 「止れ」ノ動令ニテ駈歩ヲ始ム、停止スルニハ徒手駈歩
 ノ場合停止ノ要領ニテ停止シ立銃ヲナス

行進中折敷ケ及伏セ并ニ

同上ヨリ起立及前進

行進中折敷ヲナスニハ「折敷け」ノ號令ニテ左脚ヲ前方
 ニ踏出シ右脚ヲ地ニ著ケ立銃ニ於ケル如ク銃ヲ下ゲ之ヲ
 右膝ノ前ニ立テ銃身ヲ後ロニシ右手ニテ木被部ヲ握リ左
 手ヲ左股上ニ置ク
 伏セヲナスニハ「伏せ」ノ號令ニテ停止ノ立銃ヲナシ伏

射ノ場合ト同要領ニテ伏臥シ木被部ニ就キ銃ヲ左ノ前臂ニ載セ槓杆ヲ上ニス
折敷又ハ伏セニ在ルトキ起立セシムルニハ「起テ」ニテ起チ又前進スルニハ「おへ」ノ豫令ニテ起チ立銃ヲナシ「進め」ノ動令ニテ擔銃ナシツツ行進ヲ起ス

突 擊

突擊ヲナスニハ著劍シ然ル後左ノ號令ヲ下ス

突擊に 進め

豫令ニテ右手ヲ以テ木被部ニ就キ提銃シ若シ擔銃ニ在ルトキハ立銃ヲナス要領ニテ肩ヨリ銃ヲ下ロシ床尾ヲ少シ

ク地面ヨリ離シ銃口ヲ凡ソ右肩ノ前ニ在ラシメ左手ヲ以テ劍鞘ヲ握リ動令ニテ駈歩ヲ以テ前進シ次ニ

突込め

ノ號令ニテ吶喊シ勇敢ニ敵中ニ突入シ格闘スベキモノトス

演習ニ於テハ敵中ニ突入スルニ先ダチ「止れ」ノ號令ヲ下シ停止シ立射ノ構ヘヲナサシムルヲ可トス

散 兵

散兵トハ戰鬪ノタメ密集隊形ヨリ散開シタルモノヲ云フ而シテ此ノ散開隊形ハ歩法ノ主要戰鬪隊形トス、之レ各

散開隊形ヲ
步兵ノ主要
戰團隊形ト
ナシタル理
由

兵ハ地形ヲ利用シ其ノ身ヲ掩護シ以テ火器ノ効力ヲ發揚シ前列及左右ノ者ニ妨害セラルルコトナキヲ以テ火器ノ使用自由ニ、敵火ニ對シ目標小ナレバ其ノ効力ヲ減殺シ運動自由ニシテ進退快速ナルヲ以テナリ

散兵ノ行進及停止

散兵ハ常ニ銃ヲ安全裝置ニシ、表尺ヲ倒シ、彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ銃口ヲ上ニシ、適宜ニ之ヲ提ケ速歩ノ速度ヲ以テ步調ナク又々自由ナル姿勢ヲ以テ快活ニ運動ス
停止シタル時ハ速カニ位置ヲ撰ビ次ニ之ニ應ズル姿勢ヲ取り射撃ノ姿勢ヲナス、若銃ニ裝填シアラザルトキハ裝

填ス尙據ルベキ場所ナキトキハ伏セヲナスヲ通常トス
注意 演種ノ目的ニ依リ散兵ニ伏セノ姿勢ヲ取ラシムルヲ要セザルトキハ豫メ停止ニ於ケル姿勢ヲ告知スルヲ可トス

散兵ヲ前進退却

セシムル號令

前進セシムルニハ 前へ
退却セシムルニハ 後へ
斜行進ヲナサシムルニハ 斜めに右(左)へ
同上ヨリ舊方向ニ復セシムルニハ 斜めに左(右)へ

速カニ前進ヲナサシムルニハ 速歩 歩
行進間歩度ヲ速カニナサシムルニハ 速歩
駈歩ノ歩度ヨリ速歩ノ歩度ニスルニハ 速歩

散兵ノ嚴守スベキ要件

- 1 成ルベク身體ヲ敵ニ曝露スル部分ヲ少ナクスル事
- 2 占ムベキ位置ハ射撃ニ便ナルコト
- 3 射撃姿勢ハ安樂ニシテ長時間ニ堪ヘ得ベキ事
- 4 進退容易ナル事
- 5 目標發見ヲ早クナスコト
- 6 散兵ハ常ニ敵ニ面シテ停止ス

散兵ノ射撃

伏射 膝射及立射ノ外時ト場所トニ依リ銃ヲ地物ニ依トシ射撃スルアリ之ヲ依托射撃トイフ即チ土塊樹木等ニ銃ヲ托シテ射撃スルモノニシテ此ノ法ハ最モ確實ニ射撃効力ヲ發揚シ得ルモノナリ故ニ小ナル土塊ト雖モ之レガ利用ヲ忽ニスベカラズ

樹木ノ後ロニ在リテ立射若シクハ膝射ヲナストキハ左手ノ前臂ヲ樹木ニ托ス

胸墻ニ據リテノ射撃ハ身體ノ左側又ハ胸ヲ内斜面ニ接シ左肘又ハ兩肘ヲ臂座ニ置キ銃ヲ胸墻ニ托ス、此ノ場合左

手ヲ以テ床尾ヲ握リ拇指ヲ内側ニ當テ他ノ四指ヲ外側ニ當テテ銃ヲ肩ニ引著ケ右手ヲ以テ強ク銃把ヲ握リ射撃スルヲ可トス

第二章 部隊教練

分隊教練

各個教練ヲ熟達セシメタル後若干ノ生徒ヲ以テ一列又ハ二列ノ分隊ニ編成シ小隊ノ一部トシテ各個教練ニ於テ習得セシモノヲ行フ

編成

一個分隊ハ八名乃至十六名位トス生徒身幹ノ順ニ一列或ハ二列横隊ニ整列シ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス（之ヲ正面ト云フ）

次ニ各生徒ノ間ハ肘ト肘ト互ニ相接觸スルヲ無キヲ要ス即チ左手ヲ腰ニ當テ（左手ヲ腰ニスルニハ四指ヲ並ベテ前ニシ拇指ヲ後ロニス）肘ヲ張り左隣生徒ノ右臂ニ僅ニ觸ルルヲ以テ度トス

此ノ左手ヲ腰ニシ間隔ヲ取ル方法ハ漸次習熟スルニ至リテハ全ク行ハザルモノトス

二列ニアリテハ前後ニ重疊スル二人ヲ伍ト云フ
尙前ナル列ヲ前列又ハ第一列、後ナル列ヲ後列又ハ第二

列トイフ

前列後列ノ距リヲ列間距離ト云ヒ其ノ距リハ前列ノ背若シクハ背囊ヨリ自己ノ胸迄七十五珊知米トス
凡テ部隊教練ニアリテハ各人ノ諸動作ハ齊一ナラザルベカラズ殊ニ整頓及横隊行進ニ在リテハ最モ然リトス故ニ充分能ク其ノ要領ヲ了解セシメ、小部隊ノ教練ニ於テ完全ニ熟達セシムルハ緊要ノ事ナリトイフベシ

整頓

一列ニ在ルトキ基準生ヲ出シテ整頓ヲ行フニハ
右(左)ニ人三步(四步等)おへ

ノ號令ニテ右(左)翼ノ二人ハ示サレタル步數ヲ前進シ
二番ハ一番ニ整頓ス、此ノ時指揮ハ基礎生タルベキ二人ノ姿勢ノ正否及肩ノ線ノ直否ヲ檢シ

右(左)へ 準へ
ノ號令ヲ下ス

但シ一人宛指命シテ整頓セシムルニハ特ニ何番ト指命シ次ニ號令ヲ下ス

準へノ動令ニテ舊列ニ在ル者(又ハ指命サレタル者)ハ整頓線ノ後步約半歩ノ所ニ停止シ頭ヲ右(左)ニ廻シ小步ヲ以テ整頓線ニ就キ執銃ノ時ハ提銃シテ如上ノ動作ヲ成ス(整頓線ヨリ半歩後方ニ停止スルニハ最後ノ步幅ヲ

縮少ス)

整頓終レバ左ノ號令ヲ下ス

左れ

列生ハ速カニ頭ヲ正面ニ復ス

注意

整頓ヲナスニハ先ツ兩足ノ位置ヲ正シクシ頭又ハ肩、

上體ヲ前後ニ出スコトナク整頓ス完全ナル整頓ハ各人

整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取リテ頭ヲ右(左)ニ廻シ右

(左)ノ眼ヲ以テ其ノ右(左)ノ者ヲ視、他方ノ眼ヲ

以テ全線ヲ視通シ得ルモノトス

其ノ場ニ於テ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右へ 準へ 次ニ 左れ

特ニ號令ヲ以テセズ單ニ各個ニ整頓スル場合ハ左れノ

號令ヲ待ツナク頭ヲ正面ニ復ス而シテ此ノ場合頭ヲ正

面ニ復スルニハ基準ノ方ヨリ順次ニスベシ

尙ホ教育ノ手段トシテハ集合ノ際ニ於ケル如ク其ノ初

期ニ於テハ間隔ヲ誤ラシムルコトナキタメ左手ヲ腰ニ

當テテ整頓セシメ漸次熟達スルニ到リテ之ヲ廢スルモ

又妙ナラム但シ左手ハ頭ヲ正面ニ復スルト同時ニ下口

スモノトス

小隊教練

初年級ニ整頓ヲ教授スルノ手段

小隊教練ハ中隊教練ノ一部ニシテ中隊教練ニ入ルノ準備ヲナスヲ以テ目的トス

編成

小隊ハ二列ニ整列シ之ヲ數個ノ分隊ニ分ツ、而シテ分隊ハ右翼ヨリ順次ニ番號ヲ附ス（第一分隊、第二分隊ト云フガ如シ）分隊ニ各一名ノ分隊長ヲ置ク、右翼ニ在ルヲ右翼分隊長（右翼下士）ト云ヒ、左翼ニ在ルヲ左翼分隊長（左翼下士）ト云フ其他ノ分隊ヲ押伍ト云フ翼分隊長ハ各其ノ翼ノ前列ニ、押伍ハ已ノ分隊ノ中央後後列ヨリ二歩ノ地ニ位置ス

分隊長ハ要スル時分隊ヲ指揮シ又タ小隊長ナキ時ハ小隊ヲ指揮シ

整頓

兩翼分隊長ヲ前進セシメ整頓ヲ行フニハ

嚮導三步（又は四步等）ヲ行ハ

ノ令ニテ兩翼分隊長ハ示メサレタル步數ヲ前進ス小隊長ハ其ノ線ヲ正シ次ニ

右（又は左）ヘ 準ヘ

準ヘノ動令ニテ各生一齊ニ前進（此ノ時ノ前進ハ最後ノ一步ヲ縮メ整頓線ノ後方ニ停止ス）シ頭ヲ右（左）ニ廻

シ膺ヲ屈ムルコトナク小歩ニテ靜カニ整頓線ニ就キ銃ヲ下
ロス後列及押伍列ニアルモノハ正シク前方ノ者ニ重リ距
離ヲ取リテ右(左)ノ方ニ整頓ス

整頓翼ニ在ル分隊長ハ反對翼ノ分隊長ヲ目標トシ先ヅ已
ニ近キ者ヨリ其ノ位置ヲ正ス要スレバ順次ニ生徒ヲ正ス
反對翼ノ分隊長ハ要スレバ已レニ近キ二三ノ者ノ位置ヲ
正シ整頓ヲ補助ス整頓終レバ

互れ

ノ號令ニテ小隊ハ頭ヲ正面ニ復ス

其ノ位置ニ於テ整頓ヲ正スニハ單ニ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 導へ

互れ

小隊ノ後向 ウシロムキ

小隊ノ後向ヲナサシムルニハ

廻はれ 右

小隊ハ全ク後向ヲナス此ノ時缺伍及翼分隊長ハ前列ニ就
ク

停止又ハ行進間押伍ヲ後方ニ移スニハ左ノ號令ヲ下ス

押伍後へ

後へノ號令ニテ各押伍ハ駈歩ヲ以テ最近翼ヲ經テ後列ノ
後口ニ至リ舊位置ニ對シテ位置ス

擔銃及立銃捧銃
并銃劍ノ著脫

擔銃捧銃立銃ノ操法ハ小隊一齊ニ行ヒ著劍及脫劍ハ各自ニ迅速ニ行フモノトス

裝填及抽出

裝填スル時後列生ハ約一步右斜前ニ閉テ裝填シ、終レバ舊位ニ復ス、彈藥ヲ抽キ出ス時モ又タ然リトス

又銃及解銃

又銃ヲ爲サシムルニハ著劍ノ後チ左ノ號令ヲ下ス

又メ銃

奇數後ノ前列生ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ、銃身ヲ前ニシツツ、床尾踵ヲ右足尖ヨリ床尾鉞ノ三倍丈ケ前方ニ出シ右手ヲ放チ銃ヲ左方ニ傾ク

偶數伍ノ前列生ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ、床尾踵ヲ左足尖ヨリ尖尾鉞ノ三倍丈ケ前方ニ出シ銃ヲ右方ニ傾ケ右隣生ト鏢ヲ組合ス

奇數列ノ後列生ハ左手ヲ以テ下帶ノ上ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ上ケ右足ヲ踏ミ出シ既ニ組合セタル前列ノ鏢ニ組合シ床尾踵ヲ左隣トシ間隔ノ中央前ニ置ク

偶數伍ノ後列生ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ右斜

ニシ左足ヲ踏ミ出シ照星ノ下ノ所ヲ既ニ組合セタル鏢ノ左ニ寄セ掛ケ銃ハ奇數伍ノ後列生ノ銃ニ平行スルガ如ク

左翼伍奇數ナルトキハ翼分隊長又ハ押伍列ノモノト又銃ヲナスカ又ハ止ヲ得サルトキハ著劍ヲナスコトナク擲杖ヲ以テ又銃ヲナスコトアリ、尙ホ雨天等ノ場合銃劍ヲ錆ビシムル虞アルトキハ著劍スルコトナク擲杖ヲ以テ又銃ヲナスコトアリ

又銃ヲ解クニハ左ノ號令ヲ下ス

偶數伍ノ後列生ハ前同様左足ヲ踏出シ右手ヲ以テ其ノ銃

ヲ取り立銃ヲナス
其ノ他ノ三名ハ(奇數伍ノ後列生ハ右足ヲ踏出シ)左手ヲ以テ各其ノ銃ノ上帶ノ下ヲ右手ヲ以テ木被部ヲ握リ銃ヲ上ゲ靜カニ交叉ヲ解キ立射ヲナス

射擊

射擊ヲ別チテ一齊射擊及各個射擊トス
一齊射擊トハ小隊一齊ニ射擊スルヲ云ヒ、各個射擊トハ各自ニ其ノ目標ノ景況彈藥ノ現數等ニ應ジ其ノ緩急ノ度ヲ計リ有利ニ射擊スルヲ云フ
翼分隊長及押伍ハ通常射擊ヲセサルモノニシテ要スル時

翼分隊長及押

伍ハ通常射
撃ヲ行ハス

ノミ爲スモノトス立銃ニアリテハ立銃ヲナシ（右翼分隊
 長ハ半右向ヲナス）膝（伏）射ニアリテハ膝（伏）射ノ姿勢
 ヲ取ルモノトス
 伏射ハ一列ニテ行フヲ通常トス
 射撃ヲ行フニハ豫メ方向、目標、姿勢及照尺（要スレバ
 照準點）ヲ示令スルモノトス
 射撃ヲナス時隊ノ正面ハ目標ニ對スル方向トナルベク直
 角ヲナス如クスルヲ可トシ若シ要スレバ豫メ方向ヲ變換
 スベキモノトシ且ツ押伍列前ニアルトキハ後列ノ後ニ移
 スベシ
 射撃ヲナサシムルニハ左ノ例ニ倣ヒ號令ヲ下ス

目標
姿勢
照尺

一齊射撃

一本松の傍の密集隊
 立射（又は膝射）の格へ 銃
 千
 狙へ
 撃

各個射撃

森の右に現れたる砲兵
 立射（又は膝射）の格へ 銃
 八百
 各個に撃て

一齊射撃ハ狙へニテ照準シ、撃テノ動令ニテ發射シ次發
 ノ用意ヲナス射撃ヲ續行スルニ全距離全目標ノ場合ニ於
 テハ次發ヨリハ單ニ「狙へ」「撃」ノミヲ號令スルハ勿
 論ナリ
 各個射撃ニ於イテ指揮者其ノ速度ヲ速ムルノ要アルトキ

ハ「尚早ク」「尚遅ク」等ノ注意ヲ與フルモノトス

二種ノ照尺ヲ用フル時ハ

第一列ハ 近キ照尺

第二列ハ 遠キ照尺

ヲ取ル

射撃ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

撃ち方止め

裝填シアルトキハ彈藥ヲ抽出シ、表尺ヲ倒シ、立銃ヲナシ右翼分隊長及後列ハ舊位ニ復ス

右(左)向

右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ 右(左)

右(左)向ヲ爲シタル時偶數生(奇數生)ハ奇數生(偶數生)ノ右(左)ニ出デ伍ヲ組ミ四人相並ビテ側面向トナル

側面向ニアルトキ左(右)向ヲ爲セバ伍ヲ解キ橫隊トナリ各自右(左)方ニ整頓ス

翼分隊長及押伍列ニアルモノハ其ノ位置ニアリテ右又ハ左向ヲナス

行進

横隊ノ正面行進及

背面行進

行進間ノ嚮導

號令ハ各個教練ニ準フ
 行進間嚮導ハ常ニ右方ニ取ル若シ左方ニ之ヲ取ル時ハ特ニ之ヲ示スモノトス
 小隊長ハ行進目標ヲ嚮導翼分隊長ニ示ス
 小隊ハ一齊ニ行進シ嚮導ニ準ヒテ行進スルモノトス
 嚮導ハ列生ニ關スルコトナク與ヘラレタル目標ニ向ヒ又ハ正面ト直角ニ行進ス
 行進間生徒ノ遵守スベキ要件ハ左ノ如シ

行進間生徒ノ遵守スベキ要件

- 一 嚮導何レノ方ニアルモ頭ヲ常ニ正シク保ツコト
- 二 整頓翼ヨリ押來ル時ハ常ニ之ニ從ヒ、反對翼ヨリ押シ來ル時ハ之ヲ支フル事
- 三 整頓線ヨリ進ミ若シクハ後レタル時ハ漸次ニ回復シ決シテ急速ニスルナキコト
- 四 若シ歩ノ違フコトアルトキハ直ニ嚮導ノ方ノ隣生ニ準ヒ踏替ヲナスコト

斜行進

號令及動作ハ各個教ニ準ズ
 斜行進中整頓ハ常ニ斜行スル方ニ準フモノトス

斜行進ニアリテ各生徒ノ位置正シキ時ハ其ノ肩互ニ平行
ス即チ右斜行ニ在リテハ各生徒ノ右肩ハ其ノ右隣生徒ノ
左肩ノ後方ニ在リ左斜行ニアリテハ之ニ反ス

突 擊

此ノ運動モ又々各個教練ニ記セシ要領ニ準フ

停 止

横隊行進ニアル時小隊ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下
ス

小隊 止れ

止レノ動令ニテ小隊ハ停止シ各生ハ各自嚮導ノ方ニ整頓

シ整頓終レバ嚮導ノ方ヨリ順次ニ頭ヲ正面ニ復ス
後口向キヲナスト同時ニ停止セシムルニハ

廻れ右へ 止れ

小隊ハ後向ヲナシテ停止シ各生ハ前項ニ準ジ整頓ヲナス

方^ム向^キヲ換^ヘ

右(左)ニ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向を換ヘ 進め

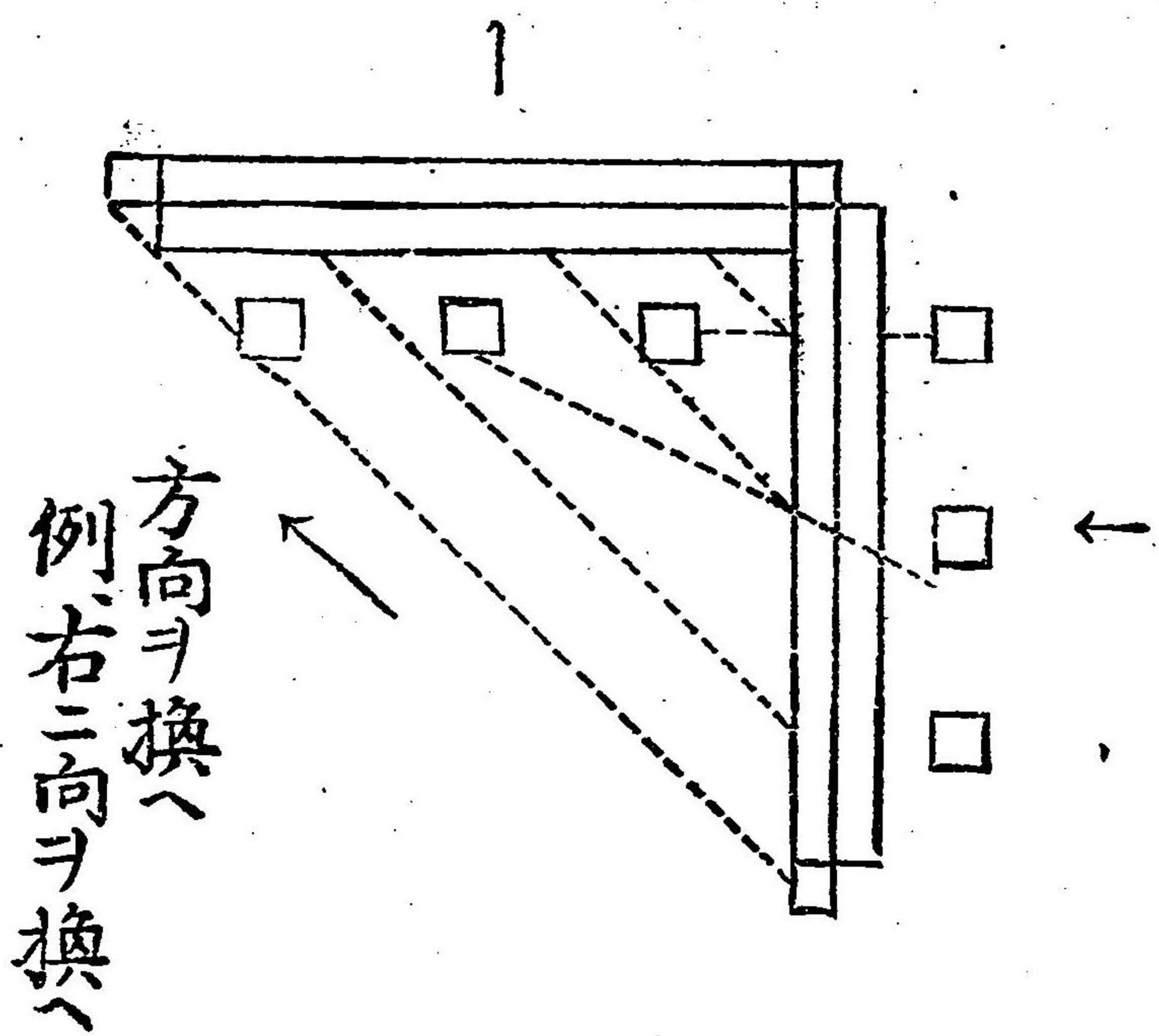
停止間方向
ヲ換ヘ

停止間ニアリテハ右(左)翼分隊長ハ右(左)向ナシ各
生徒ハ半右(左)向ヲナシ捷路ヲ經テ逐次新線ニ至リ其
ノ右(左)隣生ニ整頓ス

尙ホ方向ヲ
換フニハ銃
ヲ擔フコト
ナク提銃ヲ
ナシテ行フ
若シ駈歩ヲ
以テ行フ要
アルトキハ
「茲步」ノ
號令ヲ加ヘ
後「進め」

第一圖

方向ヲ換ヘ



行進間ノ方
向ヲ換ヘ

小角度ノ方
向變ヘ

ノ號令ヲ下ス

行進間ニアリテハ右(左)翼分隊長ハ右(左)向ヲナシ
テ行進ヲ續ケ、各生徒ハ前記ノ方法ニ準シ駈歩ヲ以テ新
線ニ就キ右(左)生徒ニ準フテ行進ス

小角度ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標ヲ示シテ行フ若
シ行進中ナラバ嚮導ハ新目標ニ向ヒテ行進シ各生徒ハ步
度ヲ縮メ又ハ伸シテ新線ニ著クモノトス

注意行進間方向ヲ換フルニ當リ外翼ノ生徒往々疾驅シ
又タ外翼ノ方ニ間隔ヲ開キ過グル事ナキ様スベシ

側面行進

横隊ヨリ側面向ヲナシ行進ヲ爲スニ始メ

右(左)向け 右(左)

ノ號令ヲ以テ右(左)向ヲナシ伍ヲ組ム次ニ

おへ 進め

ノ號令ヲ以テ行進ヲ起スモノトス

各生徒ハ常ニ左(右)ニ整頓シ嚮導ノ直後ニアル生徒ハ

其ノ跡ヲ踏ム如ク行進シ其ノ他ノ生徒ハ列中ニアリテ互

ニ正シク重リテ行進ス

側面行進間伍ノ分解 及重複

伍ヲ分解スルニハ

伍々解れ 進め

進メノ動令ニテ重複シタル生徒ハ各自ノ舊位ニ復ス而シ

テ後列生ハ其ノ前列生ニ準フ

二列ニテ行進シアルトキ伍ヲ組ミ四列ニスルニハ

伍々併せ 進め

進メノ動令ニテ側面向ノ要領ニ準ジ伍ヲ重複ス

又々單ニ四列作れ 二列作れ等ノ號令ヲ以テスル

コトアリ

伍々方向ヲ換へ

停止或ハ行進シアルトキ伍々方向ヲ換ヘシムルニハ

伍々左(右)ヘ 進め

停止間ニテハ行進ヲ起シ行進間ナラムニハ行進ヲ續ケ嚮導及先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ旋回軸ニ在ル生徒ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル生徒ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘテ行進ス、其ノ他ノ各伍ハ先頭伍ノ方向ヲ換ヘシ所ニ到リ同方法ヲ以テ方向ヲ換フ

停止及正面向

側面縱隊ノママ停止セシムルニハ

小隊 止れ

次ニ正面ニ復スルニハ

左(右)向け 左(右)

ノ號令ヲ以テ左(右)向ヲナシ(四列ニアリタルトキハ伍ヲ解キ)各自嚮導ノ方ニ準フ

又タ停止シ直ニ正面ニ向カシムルニハ

右(左)向け 止れ

一旦停止シ然ル後正面ニ向イ伍ヲ解キ、各自整頓ヲナス

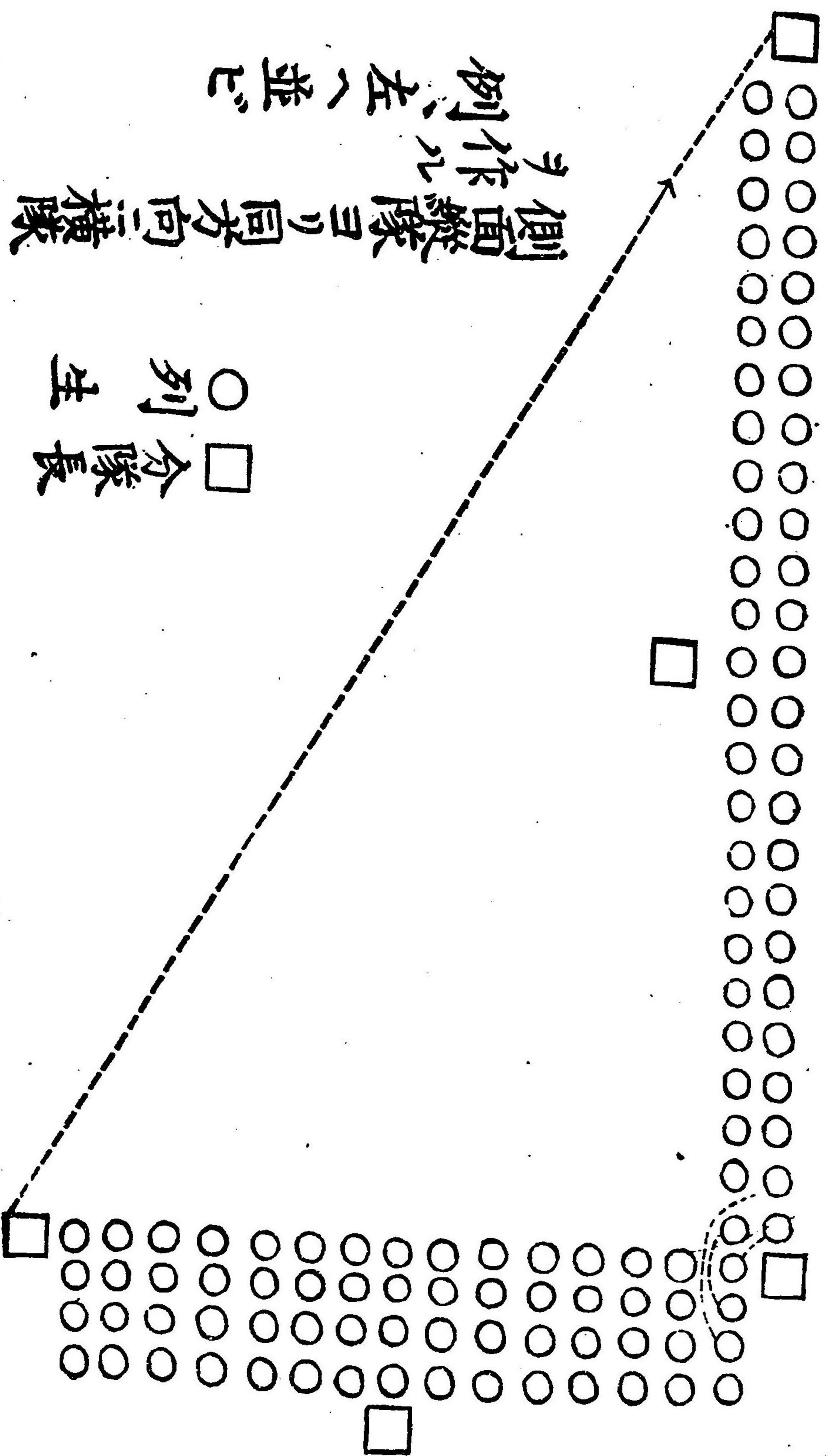
行進間右(左)向

行進間右(左)ニ方向ヲ換フルニハ。

右(左)向け者へ 進め
各伍ハ右(左)向ヲナシ重複又ハ分解ヲナス

側面縱横隊ヨリ同方向ニ
横隊ヲ作ル

側面縱隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ編成スルニハ左ノ號令ヲ下
ス
左(右)へ並び 進め
停止間ニテハ嚮導ハ動カズ他ノ各生徒ハ伍ヲ解キ右(左)
肩ヲ前ニシ速歩ヲ以テ捷路ヲ經テ逐次新線ニ就キ整頓ス
行進間ニアリテハ嚮導ハ依然目標ニ向ヒ行進ヲ續行シ各



側面縱隊ヨリ同方向ニ横隊
ヲ作ル
例、左へ並び

○ 列生
□ 分隊長

第二圖

生徒ハ伍ヲ解キ駈歩ヲ以テ捷路ヲ經テ新線ニ就キ隣生徒ニ準フテ行進ス

横隊ヨリ同方向ニ

側面縦隊ニ移ル

横隊行進ニ在ルヲ同方向ニ側面縦隊ニ移スニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左) 向け伍々右(左)へ 進め

小隊ハ全ク側面向トナリ伍ヲ組ミ先頭伍ヨリ方向ヲ變換ス但嚮導ハ依然目標ニ向イ行進スルモノトス

一 二列ヨリ一列ニ。一列ヨリ

一二列ニ移ル

二列ヨリ一列ニ移ラシムルニハ先ツ基準伍ヲ示シ然ル後左ノ號令ヲ下ス

一列作れ 進め (或ハ單ニ一列作れ)

停止間ニ在リテハ基準伍ノ前列ハ動ク事ナク其ノ他ノ諸伍ハ左右ニ要スル丈ケノ間隔ヲ取り後列生ハ前列生ノ左ニ出デ各基準ノ方ニ進フ
行進間ニアリテハ基準伍ノ前列生ハ續ヒテ行進シ其他ノ伍及後列生ハ前記ノ要領ニ準リ一列トナリ基準ニ準フテ行進ス

二列ニ復スルニハ

二列作れ 進め

一列ニ移ルト略反對ノ順序ヲ以テ二列ヲ作ル

途^{ミチ}步^{アシ}

途步ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

途步

號令ニテ步調ヲ止メ銃ハ各自欲スル所ニ從ヒ擔ヒ或ハ負革ヲ以テ肩ニ懸クベシ又タ疲勞ヲ避クルタメ談話軍歌唱歌 (軍隊ニテハ喫烟ヲモ) ヲ許ス、然レドモ許可ナクシテ妄リニ隊列ヲ離ルルヲ禁ズ

途歩ヲ用ユ
ル場合及注
意

途歩ハ行軍ニ用フルモノニシテ市街又ハ人家稠密ナル村
落ヲ通過スル時ハ步調ヲ取ラザル速歩ニ移シ隊列ヲ整フ
ベキモノトス

解レ及集レ

散解セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解レ 進め

又銃シアルトキハ直ニ散解ス、翼分隊長及押伍列ニアル
モノノ銃ハ適宜列生ノ又銃ニ寄セ掛ク
集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

集レ

又銃シアルトキハ各生徒ハ直ニ已ノ又銃シアル所ニ集ル
翼分隊長及押伍列ノ者ハ其ノ銃ヲ取ル
携銃ノママナルトキハ速カニ小隊長ノ許ニ集リ小隊長ニ
面シ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリテ右へ整頓ス

散 開

散開ハ順序正シク靜肅ニ然モ迅速ニ諸方向ニ施行シ得ル
ヲ要ス

散開スルトキ各散兵ノ間隔ハ概テ二步トス
停止又ハ行進シ在ル小隊ヲ散開セシムルニハ基準ヲ示シ
左ノ號令ヲ下ス

散れ

號令ニテ基準ノ者ハ眞直ニ行進ヲ續行シ（停止間ニ於テハ前進ヲ始メ）其他ノ者ハ駈歩ヲ以テ右若シクハ左ニ斜行シ間隔ヲ取り後列生ハ其前列生ノ左側ニ出デテ前進ヲ續行ス
 其ノ位置ニ於テ散開セシムルニハ基準ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

其の場を集れ

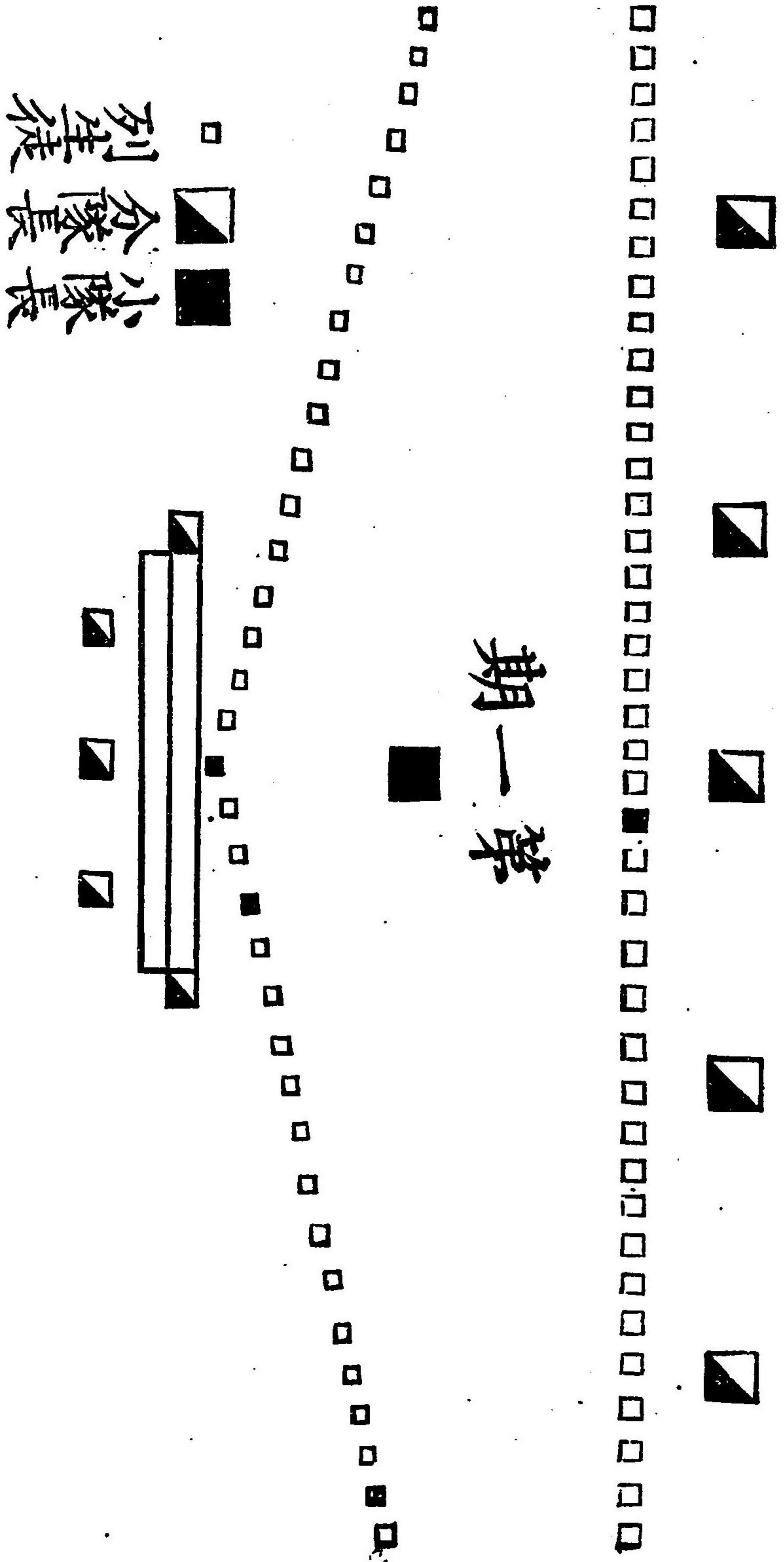
基準生ハ其ノ場ニ位置ヲ占メ其ノ他ノ生徒ハ右又ハ左向ヲナシ駈歩ニテ間隔ヲ取ル、定規外ノ間隔ヲ取り散開スルニハ散レノ前ニ何歩ニトノ號令ヲ加フ例ヘバ「左翼基

圖三 隊小

開散隊小

期二 第

期一 第



準三(四)歩に集れ」ノ如ク尙ホ斜方向ニ散開セシムル
ニハ目標ヲ示シ散レノ號令ヲ下ス例ヘバ左ノ如シ
右翼基準一本柵に向ひ散れ

散兵線ノ運動

散兵線ノ運動ハ通常速歩ヲ用フルモノトス
但シ敵ノ有効射撃下ニアリテ一地區ヨリ一地區ニ達スル
タメニハ蹶歩ヲ用非時宜ニ依リ其ノ速度ヲ速ムコトアリ
而シテ其ノ經過距離長キトキハ若干距離毎ニ停止スルヲ
可トス

集合及併合

集合ト併合
ノ相異ル點
ニ注意スル
ヲ要ス

集合ハ各自ノ定位ニ復シ、併合ハ其ノ位置ニ關セズ速カ
ニ指揮者ノ許ニ集ルヲ云フ
散兵ヲ集合スルニハ左ノ號令ヲ下ス

集れ

散兵ハ駈歩ヲ以テ指揮者ノ許ニ來リ、番號ノ順序ニ從ヒ
橫隊ニ集ル

併合ヲ行フニハ豫メ隊形ヲ示メシ左ノ號令ヲ下ス

集れ

併合ヲ行フ
ヘキ場合

散兵ハ駈足ヲ以テ指揮者ノ許ニ來リ番號ノ順ニ係ハラズ
示サレタル隊形ヲ取ル併合ヲ行フベキ場合左ノ如シ

(一) 一時敵ノ射撃ヲ受ケザルトキ掩蔽物ニ據リ隊伍ヲ整

頓シ團結力ヲ維持セシムルトキ

(二) 狭小ナル正面ヲ以テ通過スルヲ要スルトキ

(三) 縦隊ニアラザレバ通過シ難キ所ヲ經テ散兵前進又ハ
退却ヲナストキ

(四) 狭小ナル正面ヨリ多數ノ銃器ヲ用ヒムトスルトキ

中隊教練

中隊教練ノ目的ハ中隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ中隊
長ノ號令又ハ命令ニ從ヒ舉止恰モ一隊ノ如ク正整確實ニ
規定ノ運動ヲ實行シ得セシムルヲ以テ主眼トス
中隊長ハ教練間適當ノ所ニ占位スベシ

小隊長ハ密集教練ニ於テ部下小隊ノ爲スベキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ゲナキモノトス

密集教練

編成

中隊ハ之ヲ三個小隊ニ分ツ生徒教練三等分スベカラザル
キハ第三小隊ニ一人ヲ減ジ次ニ第二小隊ニ一人ヲ減ズ
小隊ハ小隊教練ノ部ニ記シタル如ク編成ス

隊形

中隊ノ密集隊形ハ正規隊形及應用隊形ノニアリ

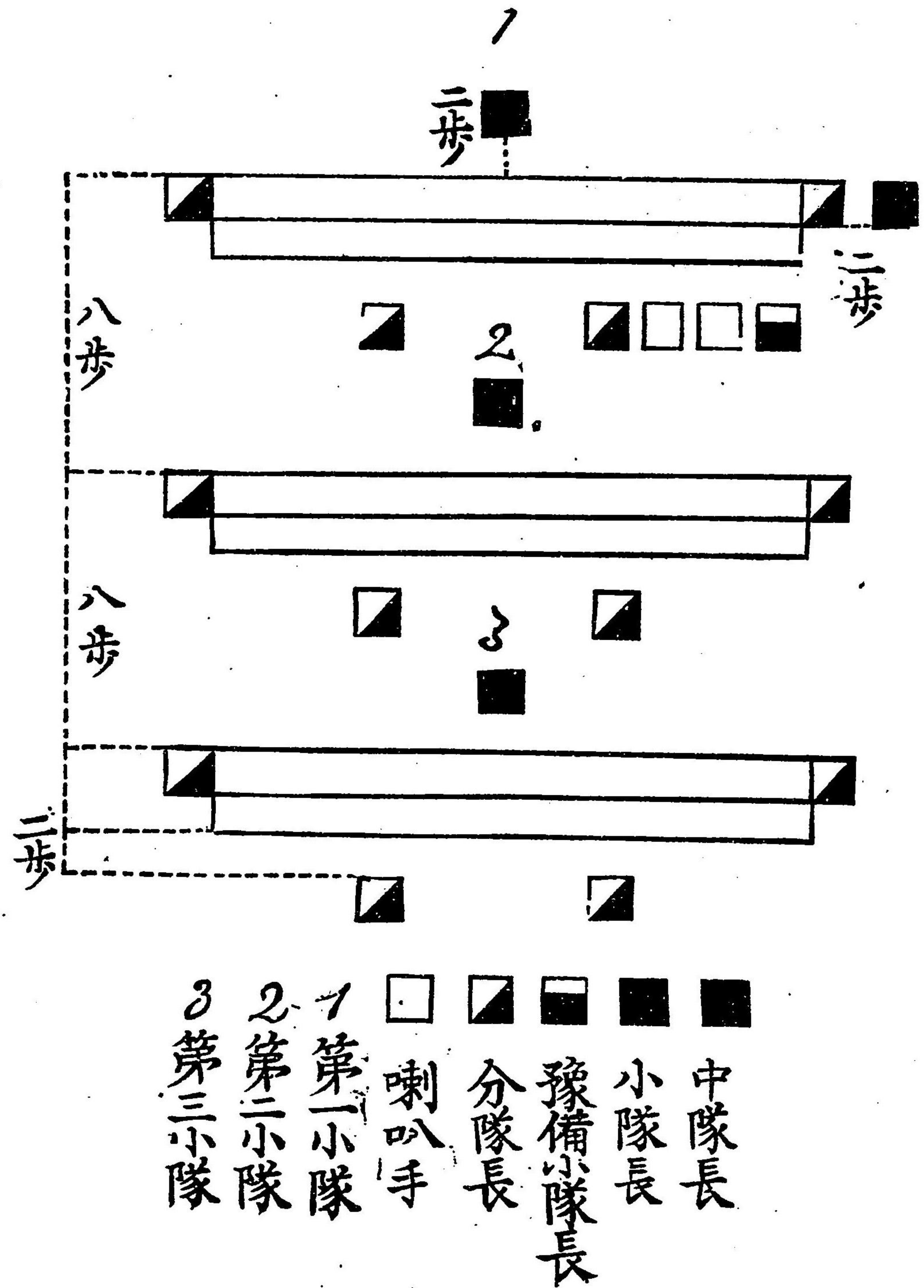
正規隊形ハ中隊縱隊ニシテ、應用隊形ハ通常併立縱隊、
橫隊及側面縱隊ノ三種トス

正規隊形ハ整正嚴格ニ演練シ以テ密集隊形ノ本旨ヲ發揮
スルヲ以テ目的トシ、應用隊形ハ敏捷ニ之ヲ實ニ適用ス
ルヲ以テ目的トス

中隊縱隊ハ三小隊互ニ八歩ノ距離ヲ存シテ前後ニ重疊ス
先頭小隊ヲ第一隊中央小隊ヲ第二小隊後尾小隊ヲ第三小
隊トス、豫備小隊長（即チ特務曹長）及喇叭手ハ常ニ第
一小隊ト運動ヲ共ニス、時宜ニ依リ八歩ノ距離ヲ伸縮シ
又小隊ノ番號順序ニ拘ラズ重疊シ或ハ小隊ヲ一隊トナス
コトアリ

第四圖

中隊縱隊



整頓

中隊縱隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

指導(何)步ヲへ

先頭小隊ノ兩翼分隊長ハ銃ヲ提ゲテ前進ス此ノ時中隊長ハ其ノ位置ヲ正ス次デ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 導へ

互れ

中隊ハ銃ヲ提ゲテ小隊教練ニ於ケル、要領ニ準ジテ前進シ整頓ヲナシ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス
 後方小隊ノ整頓翼ノ分隊長ハ正シク距離ヲ取り前方小隊

整頓翼ノ分隊長ニ重ルモノトス
小隊長モ先頭小隊ノ小隊長ニ重ル

擔銃、立銃、捧銃、著劍、脫劍
裝填及抽出

擔銃、立銃、捧銃、著劍、脫劍裝填及彈藥ノ抽出等ノ要
領ハ小隊教練ト全シキヲ以テ略ス

射擊

中隊ノ射擊ハ通常小隊ヲ指定シテ行ハシメ要スレバ其ノ
位置ヲ示ス

射擊ノ要領號令ハ小隊教練ノ部ニ記シタルヲ以テ略ス

右(左)向及後向

右(左)向及後向モ小隊教練ノ部ニ同ジ

行進

直行進、行進間ノ右(左)向及後向、側面向ノ行進、斜行進ノ要領ハ小隊ニ於ケルト同要領ニテ行フ、但シ併立縦隊ノ行進ニアリテハ基準小隊ヲ示スヲ通常トス之ヲ止ムルトキモ又々小隊ノ停止ト同要領ヲ以テ行ヒ號令ハ左ノ如シ

中隊 止れ

折敷ケ及伏セモ又々小隊教練ノ場合ニ準ジテ行ヒ中隊一

齊ニ行ヒ得ルヲ以テ度トス

方向ヲ換へ

方向ヲ換フル時ノ要領ハ小隊教練ノ部ニ記シタル要領ヲ以テ行フ

中隊縦隊ノ方向ヲ換へ

中隊縦隊ノ方向ヲ換フルニハ左ノ號令ヲ下ス

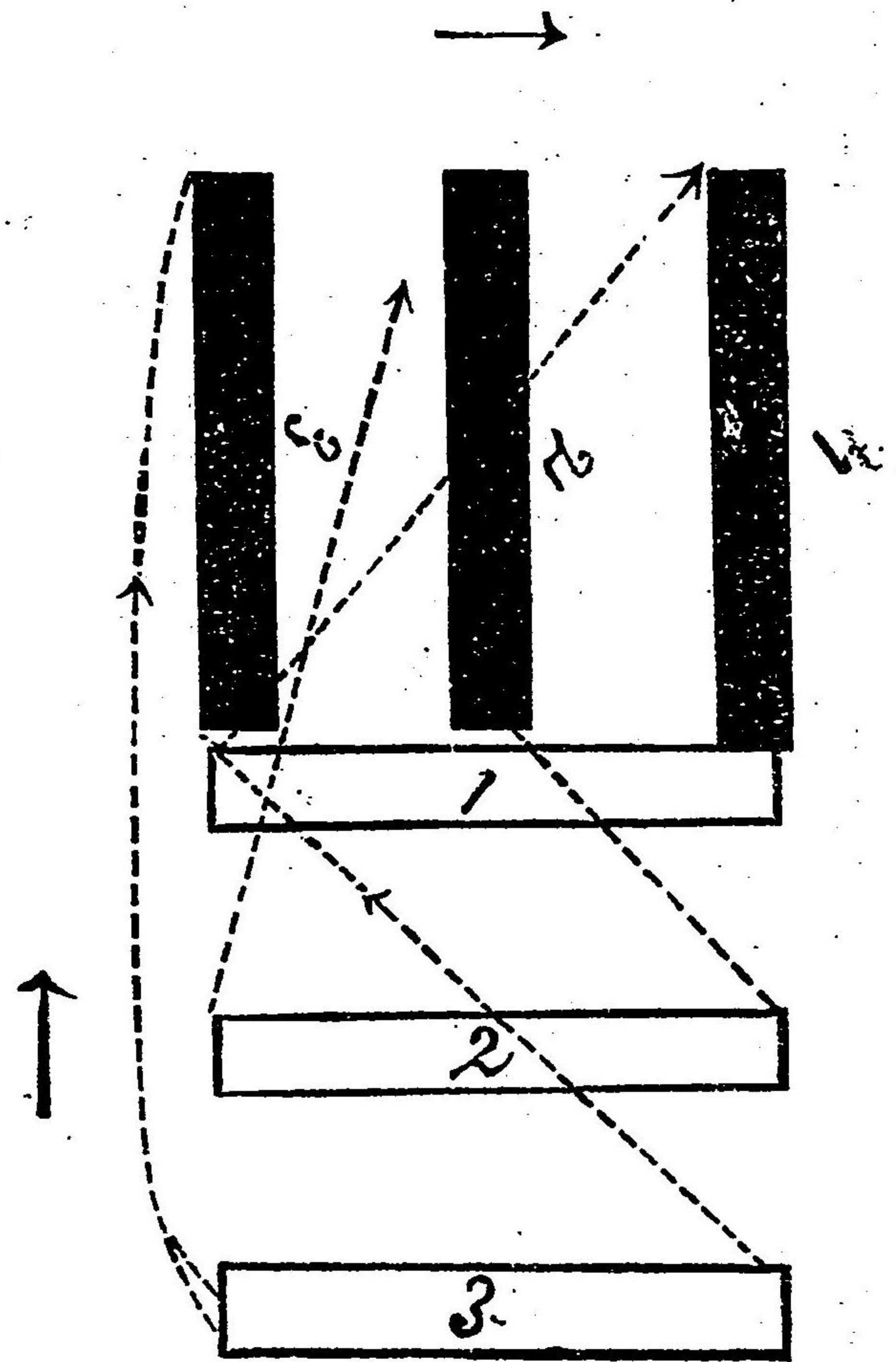
右(左)ニ方向を換へ 進め

停止間ニアリテハ先頭小隊ハ直ニ方向ヲ換へ、後方小隊ハ生徒各自ニ已ノ占ムベキ位置ニ到リ右(左)ノ方ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ先頭小隊ハ方向ヲ換へ行進ヲ續行シ後

第五圖

中隊縱隊方向ヲ換ヘ
(間止停)



横隊ノ方向ヲ換ヘ

併立縦隊ノ方向ヲ換ヘ

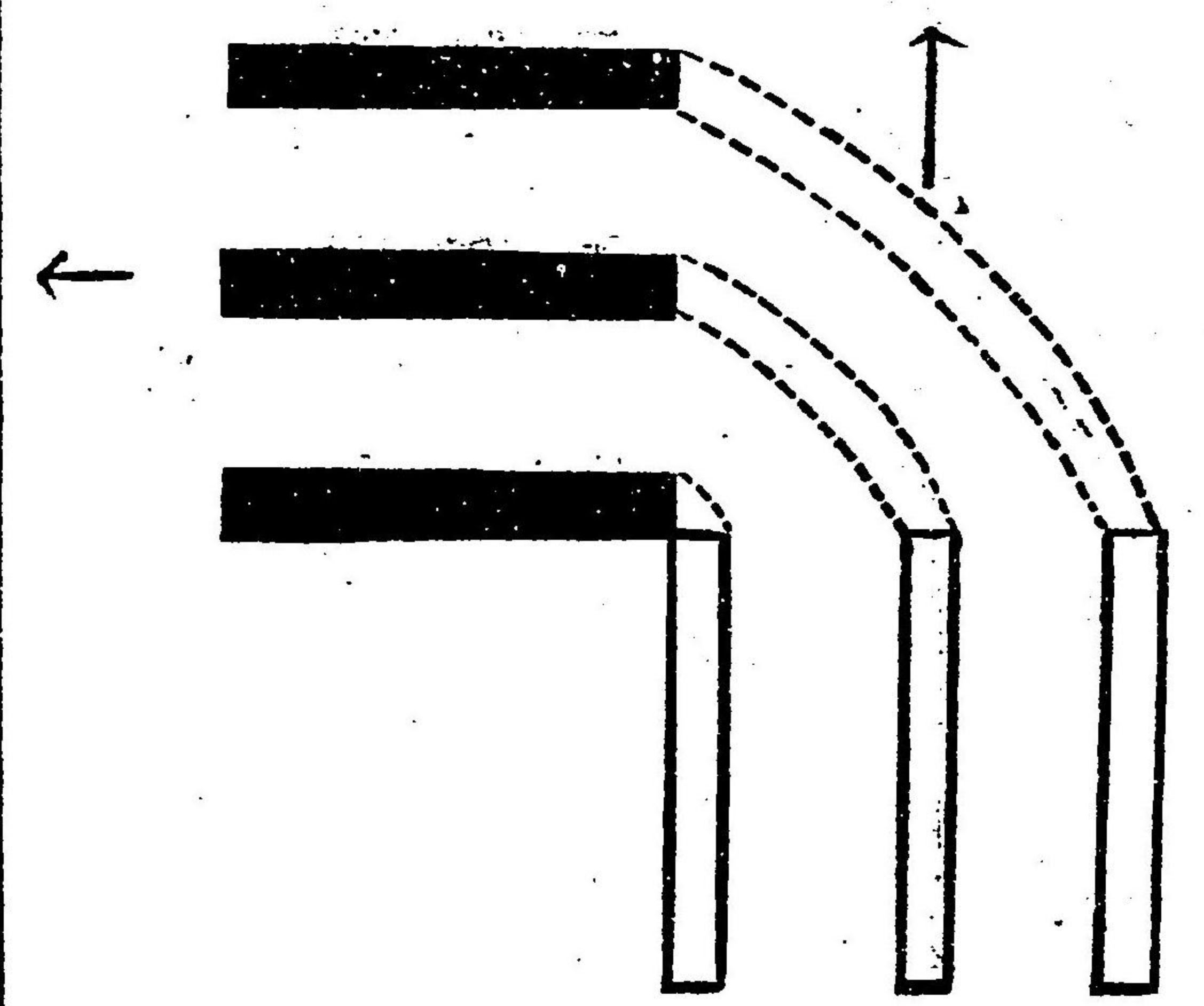
方小隊ハ先頭小隊ノ方向ヲ換ヘタル場所ニ到リ號令ナクシテ方向ヲ換ヘ先頭小隊ニ續行ス
 中隊長ハ先頭小隊ノ方向ヲ換ヘ終ラムトスルトキ要スレバ嚮導ヲ示ス
 横隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ號令ハ前ト同一ニシテ小隊教練ニ準ジテ之ヲ行ヒ行進間ニ在リテハ軸翼ノ者ハ足踏ヲナシ其ノ他ノ者ハ駟歩ヲ以テ逐次新線ニ就キ中隊長ノ「おへ 進め」ノ號令ニ依リ前進スルモノトス
 側面縦隊ノ方向ヲ換フルニハ小隊教練ノ場合ニ於ケル要領ニ準ジテ行フ
 併立縦隊ノ方向ヲ換フルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)に方向を換へ 進め
 停止間ニアリテハ軸翼ニアル小隊ハ伍々右(左)ニ方向ヲ換へ小隊ノ深サ「即チ隊ノ長」丈ケ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次其ノ齊頭ニ到リテ停止ス
 行進間ニ在リテハ軸翼小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換へ續キテ行進シ其ノ他ノ小隊ハ駆歩ヲ以テ逐次其ノ齊頭面ニ到リ速歩ニ移リ行進ヲ續クルモノトス
 少シク方向ヲ換へシムルニハ豫メ新目標又ハ新方向ヲ示シテスルヲ便利トス

隊形變換

小角度ノ方向ヲ換へ

第六圖



併立縱隊方向ヲ換へ

隊形ヲ換フルニハ上記ノ諸制式ニ從フ外左ノ要領ニ從フモノトス
 而シテ停止間ニ在リテハ銃ヲ擔ヲコトナク步度ヲ伸シテ行ヒ若シ駈歩ヲ以テ之ヲ行フヲ要スルトキハ豫令ノ次ニ駈歩ノ號令ヲ加ヘ行進間ニアリテハ常ニ駈歩ヲ用フルモノトス

中隊縱隊ヨリ橫隊ヲ作ル

中隊縱隊ヨリ橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 橫隊を作れ 進め
 小隊ハ小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動かザルカ又ハ行

進ヲ續ケ、中央小隊ハ右斜ニ、後尾小隊ハ左斜ニ、行進シ先頭小隊ノ線ニ出デ之レニ整頓ス又ハ準フテ行進ス
 一翼ニ橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右に橫隊を作れ 進め
 左に橫隊を作れ 進め

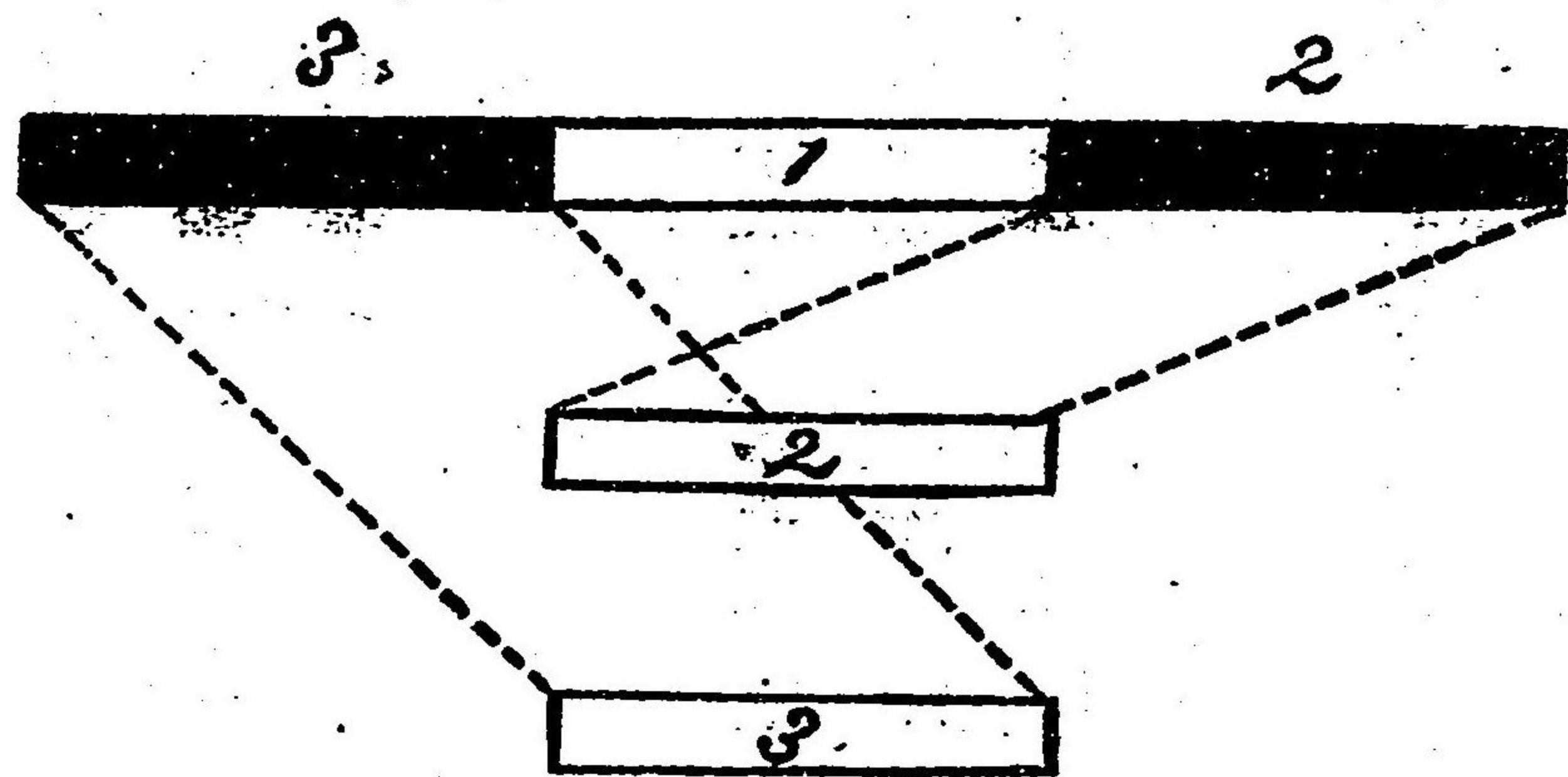
先頭小隊ハ動かザルカ又ハ行進ヲ續ケ中央小隊及後尾小隊ハ共ニ示サレタル方向ニ斜メニ行進シ先頭小隊ノ次ニ中央小隊其ノ次ニ後尾小隊ノ順ニ橫隊ヲ作り基準小隊ニ整頓スルカ又ハ準フテ行進ス

橫隊ヨリ中隊縱隊ヲ作ル

横隊ヨリ中
隊縦隊ヲ作
ラシムルニ
ハ左ノ號令
ヲ下ス
中隊後
隊作れ
進め
小隊長ノ指
示ニ從ヒ中
央小隊ハ動

第七圖

中隊縦隊ヨリ横隊ヲ作ル



カザルカ或ハ行進シ其ノ右翼小隊ハ中央左翼小隊ハ後尾
トナリ中隊縦隊ノ定位ニ到リ停止スルカ又ハ行進ヲナス
(甲圖參照)

翼小隊基ヲ準トシテ中隊縦隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令
ヲ下ス

又ハ
右へ中隊後隊作れ 進め (乙圖參照)

左へ中隊後隊作れ 進め (丙圖參照)

側面縦隊ヨリ同方向ニ
中隊ノ横隊ヲ作ル

側面縦隊ヨリ同方向ニ中隊ノ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ
號令ヲ下ス

左(右)へ並び 進め

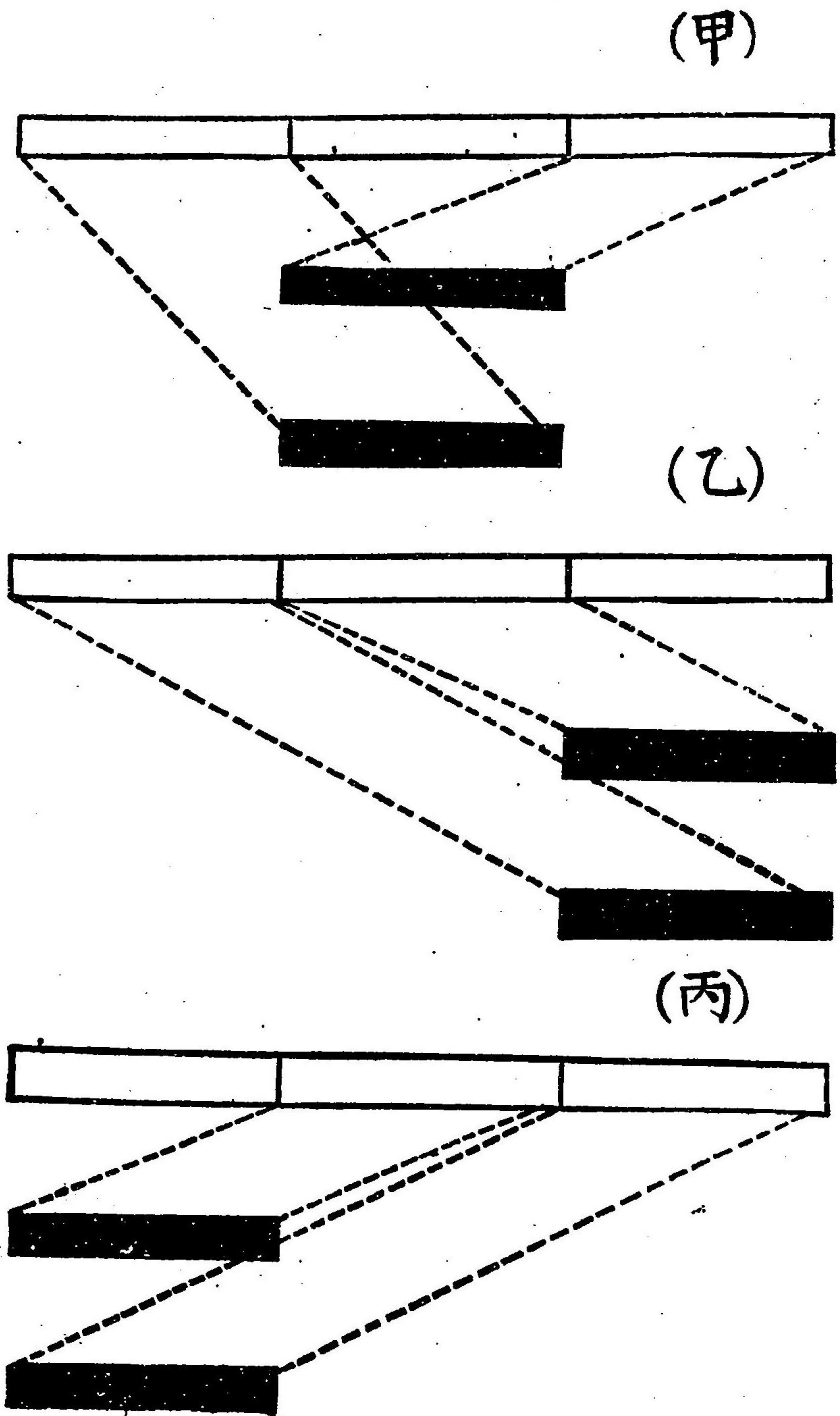
先頭ニ在ル分隊長ハ動かザルカ或ハ足踏ヲナシ中隊ハ左
(右)並ヲナス行進間ニ在リテハ足踏ヲナシ中隊長ハ更
ニ「おへ 進め」ノ號令ヲ下ス

側面縦隊ヨリ同方向ニ

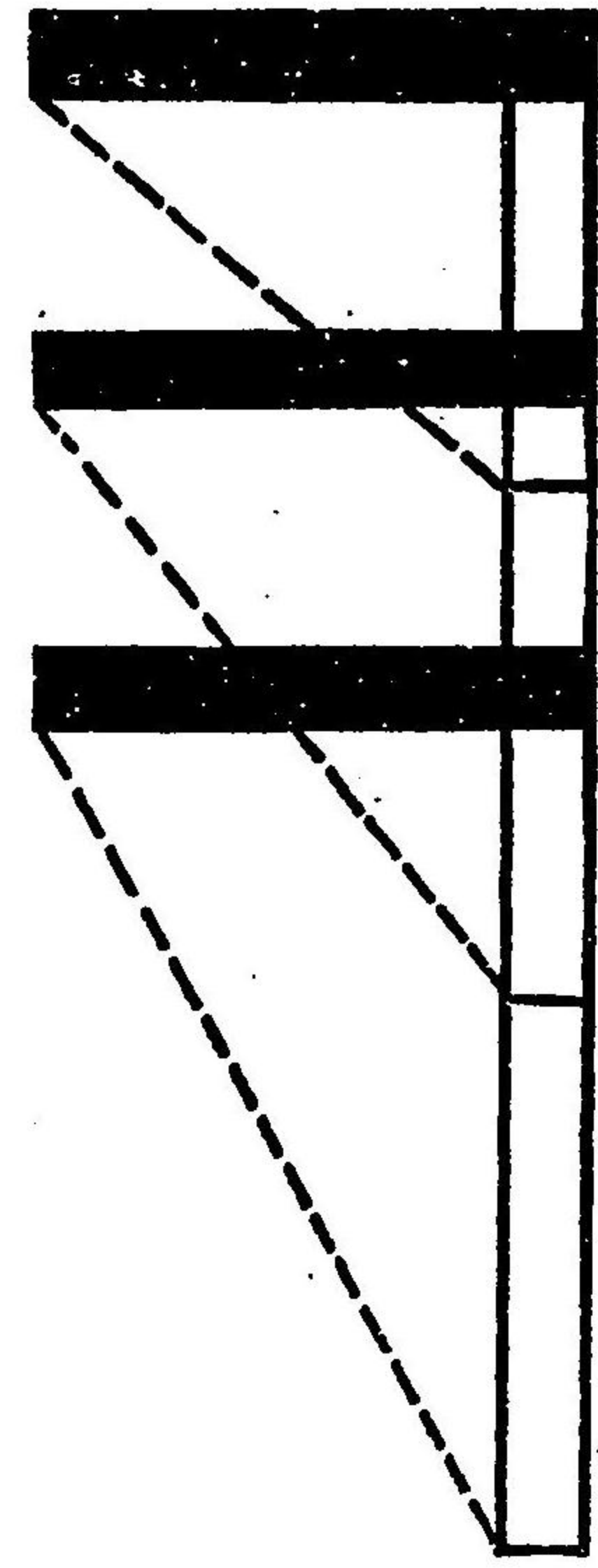
中隊縦隊ヲ作ル

側面縦隊ヨリ同方向ニ中隊縦隊ヲ作ルニハ左ノ號令ヲ下
ス

第八圖
横隊ヨリ中隊縦隊ヲ作ル



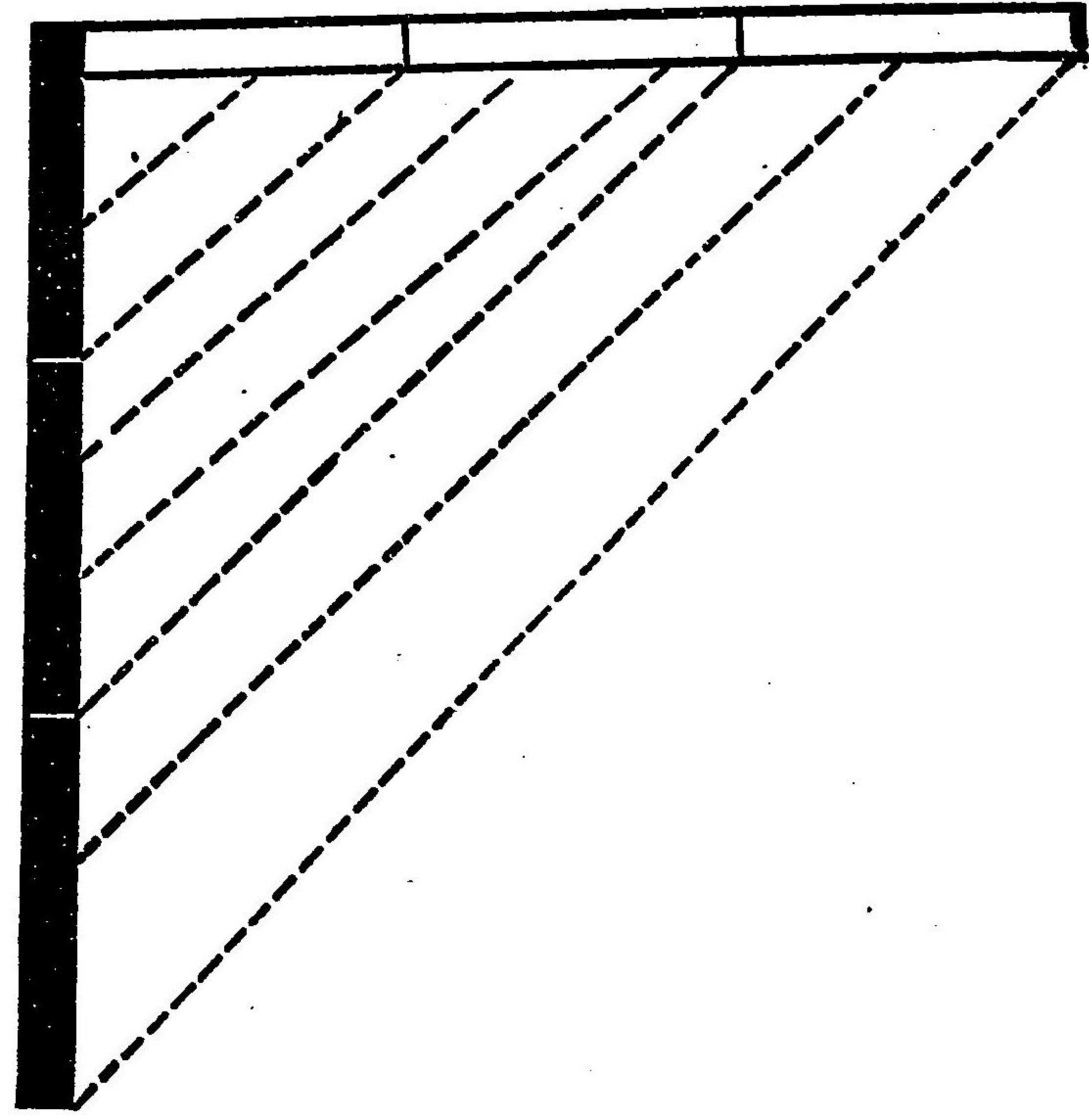
第十圖



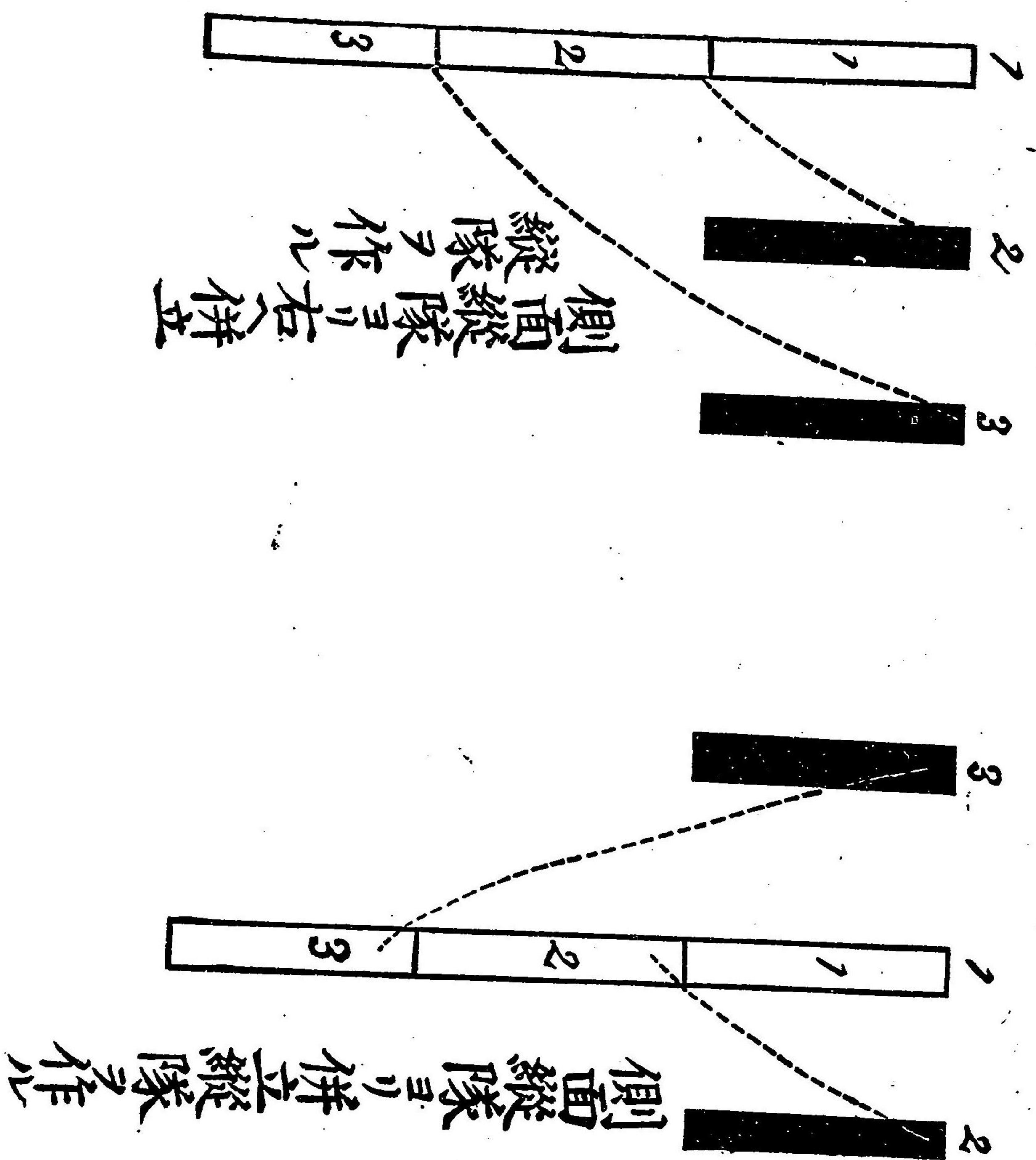
側面縱隊ヨリ中隊縱隊ヲ作ル

第九圖

側面縱隊ヨリ横隊ヲ作ル



圖一十第



中隊縦隊作れ 進め
小隊長ノ指示ニ從ヒ左並ヲナシ小隊毎ニ横隊ヲ作り後方
小隊ハ規定ノ距離ヲ取ル、行進間ニアリテハ足踏ヲナス
コトナク行進ヲ續行ス

側面縦隊ヨリ同方向ニ

併立縦隊ヲ作ル

側面縦隊ヨリ同方向ニ併立縦隊ヲ作ルニハ左ノ號令ヲ下
ス

併立縦隊作れ 進め

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭行進ハ動かザルカ或ハ行キテ行

進シ中央小隊ハ右ニ、後尾小隊ハ左方ニ定規ノ間隔ヲ取
ル如ク進出ス

一側ニ併立縦隊ヲ作ルニハ左ノ號令ヲ下ス

右ハ併立縦隊作れ 進め

又ハ

左ハ併立縦隊作れ 進め

突撃及追撃

戰鬪漸次進捗シ敵ニ肉薄シ得ルニ至レバ中隊長ハ卒先其
ノ先頭ニ立チ中隊ノ全力ヲ擧ゲテ猛烈果敢ニ突撃スベシ
敵ヲ撃退スルヤ前線ニアル小隊ハ成ルベク速カニ追撃射

撃ヲ始ムベシ此ノ場各ニ於テ前線ニ在ル小隊ハ中隊長ノ
號令ヲ待ツコトナク小隊長ノ號令ニ依リ追撃射撃ヲ行フ
モノトス

後方ニアル小隊ハ地域ノ許ス限り側方ニ進出シテ追撃射
撃ニ加フルモノトス

晝間ノ突撃ニ在リテハ喇叭手ハ突撃ノ譜ヲ連奏ス

途歩、又銃及解銃

小隊教練ノ部ニ記シタルヲ以テ略ス

解レ及集レハ小隊教練ニ於テ記シタル要領ニ準ジテ行フ
モノトス

注意中隊ノ集合ハ中隊縦隊トス（但シ特ニ指示シ集合セシムルトキハ此ノ限リニ非ザル事勿論ナリ）

散開隊形

散兵

散開隊形ハ步兵戰鬪ノ主要ナル制式ニシテ之ヲ以テ火戰ヲ行フノミナラズ多クノ場合ニ於テ突撃モ又タ此ノ隊形ヲ以テ行フモノトス
中隊ハ中隊長ノ下ス號令ニテ通常散兵線ト援隊トノ二部ニ區分セララルモノトス
援隊ハ中隊長ノ指示ニ從ヒ散兵線ヨリ必要ナル距離ヲ得

ルマデ停止スルヲ通常トス

散開シタル時豫小隊長及喇叭手一名ハ中隊長ニ隨從シ他ノ喇叭手ハ小隊ニ分屬スルモノトス

散兵線ノ構成

停止或ハ行進シアル中隊ヲ前方ニ散開セシムルニハ散開スベキ小隊及基準ヲ示メシ要スレバ小隊ノ關係位置ヲ示シタル後號令ヲ下ス
示サレタル小隊ハ散開ス

側面縦隊ニテ停止或ハ行進シアル中隊ヲ前方又ハ其ノ場ニ散開セシムルニハ散開スベキ小隊其ノ他ノ事項ヲ示シ

號令ヲ下ス

左(左)へ散れ 又ハ

其の場に右(右)へ散れ

先頭小隊ノ嚮導ノ直後ニアル生徒ハ行進ヲ起スカ又ハ續行シ或ハ其ノ場ニ位置ヲ占メ各伍ハ分解シ駈歩ヲ以テ左(右)ニ斜行シ捷路ヲ經テ散開シツツ新線ニ就クモノトス

退却スル中隊ヲ散開セシムルニハ先ヅ敵ノ方ニ向ケ次ニ散開ノ號令ヲ下ス

散兵線ノ運動

散兵線ニ用
フル歩度

散兵線ノ方
向ヲ換ヘ

散兵線ノ運動ハ通常速歩ヲ用フルモノトス但シ敵ノ有効射撃下ニアリテ平坦開濶地ヲ通過スルトキ或ハ増加ノタメ前進スルトキ及散兵突撃ヲナシ又タ集合スルトキノ場合ハ駈歩ヲ以テス而シテ其ノ經過距離長キトキハ若干距離毎ニ停止スルヲ可トス

散兵線ノ方向變換ヲナスニハ中隊長ノ指示スル目標ニ向ヒ行進スルモノトス

此ノ場合ニ於テ、散兵ハ分隊長ヲ、分隊長ハ小隊長ヲ、小隊長ハ中隊ノ中央ヲ基準トシテ行進シ分隊長及小隊長ハ通常其ノ分隊、小隊ノ中央前ニアリテ其ノ部下ヲ誘導

スルモノトス
 要スレバ中隊長ハ基準小隊ヲ示ス
 散兵線ヲ區分シテ前進セシムルニハ豫メ其ノ區分ヲ示ス
 モノトス

散兵ハ其ノ部隊長ノ誘導スル位置ニ停止スルモノトス
 停止或ハ行進スル散兵線ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標
 (方向)ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)ニ方向を換ヘ

軸翼ニアル分隊長ハ若干ノ生徒ヲ新方向ニ止ラシメ散兵
 ハ駈歩ヲ以テ新線ニ到リ停止スルモノトス

散兵線ノ射擊

散兵線ノ射擊ハ各個射擊ヲ用フルヲ常トス其ノ方法ハ既
 ニ記シタル所ナレバ此ニ省記ス

射擊開始ノ
 時機

射擊開始ノ時機ハ必ず充分ナル効果ヲ豫期シ得ルトキ若
 シクハ射擊スルニアラザレバ敵ニ接近スルニ多クノ犠牲
 ヲ供スベキ場合ニ於テス

目標撰定ノ
 要旨

目標撰定ノ要旨ハ最モ我ニ危害ヲ與フルモノ若シクハ速
 カニ殲滅スルモノノ如キ戰術上ノ價值ニ從ヒテ撰擇スベ
 キモノニシテ例ヘバ普通ノ場合ニ在リテハ我が隊ガ或ル
 目的ヲ達センガタメ前進スルニ際シ之ヲ妨害スルモノ或

ハ最モ危険ナル敵又ハ我ヨリ最モ損害ヲ與ヘ易キモノヲ射撃スル等ノ如シ

援隊

援隊ノ用途ハ散兵線ヲ増加シ又タ敵襲ノ恐レアル側面ヲ掩護スルニ在リ

援隊ト散兵線トノ距離ハ戰況ト地形トニ依リ定マルモノニシテ其ノ主トスル所ハ時機ヲ失セズ散兵線ヲ援助スルニアリ、通常最初ノ展開ニアリテハ三百米ヲ以テ適當トス而シテ漸次敵ニ接近スルニ從ヒ援隊ノ用途上此ノ距離次第ニ減縮スルヲ通常ナリトス而シテ援隊ト散兵線ト若

援隊ト散兵線トノ距離

援隊ノ隊形

シ遠隔スル時ハ中間ニ傳令ヲ配置スルヲ可トス
援隊ノ隊形ハ地形ヲ利用シ密集隊形ノ運動ニ從フモノトス又タ敵火ノ効力ヲ減スルタメ要スレハ小隊或ハ分隊毎ニ分散シ又タ一時散開隊形ヲ取ルコトアリ而シテ二小隊相合スルトキハ古參ノ小隊長(學校ニ於テハ適宜規定スルヲ要ス)之ヲ規定ス

散兵線ノ増加

散兵線ヲ増加スルニハ延伸増加及伍間増加ノ二法アリ
散兵線ノ増加ヲナスニハ左ノ號令ヲ下ス

第何隊右(左)へ延伸増加 又ハ

伍間増加ヲ
ナシタルト
キ幹部ノナ
スベキハ新
ニ區分ヲナ
スニアリ

第何小隊伍ヲ増加
指示セラレタル小隊長ノ指揮ニヨリ散開シ延伸増
加ニ在リテハ散兵線ノ翼ヨリ約十歩ノ間隔ヲ存スル如ク
(第 圖參照) 占位シ伍間増加ニアリテハ各散兵ハ散
兵ノ中間ニ入ル

伍間増加ヲナシタルトキハ各小隊ノ混淆ヲ來スヲ以テ
小隊長ハナシ得レバ新ニ其ノ部下ヲ區分ス分隊長モ又
タ小隊長ニ準ジ其ノ區分ヲナスヲ要ス

附

中隊ノ特性并一般戰鬪法則

中隊獨立シ
テ戰鬪スベ
キ場合

中隊ハ通隊大隊内ニ在リテ戰鬪ヲナスモノトス、而シテ
中隊獨立シテ戰鬪ヲナスハ全ク例外ノ場合ニシテ概テ左
ノ場合トス

前哨

徵發掩護

側背掩護

偵察

前衛

而シテ他隊ト連繫シテ戰鬪ヲナス場合ハ其ノ負擔スベキ
正面ヨリ擴張シテ他隊ニ妨害ヲ與フルガ如キ事ナキヤウ
散兵ヲ配布ス

同時ニ中隊ノ全部ヲ散開セシムル場合

獨立シ戰鬪スベキ場合ハ全ク獨力ヲ以テ戰鬪シ且ツ又側方ノ警戒モ自ラセザルベカラズ故ニ成ルヘク永ク援隊ヲ控ヘ置クヲ要ス

中隊ノ全部ヲ同時ニ散開スルハ概テ左ノ場合トス

1 近距離ニテ不意ニ敵ニ遭遇シ初メヨリ優勢ノ火力ヲ以テ當ラムトスルトキ

2 援隊ヲ置クモ唯敵火ニ對シ暴露シ却リテ損害多カルヘキトキ

3 前進ヲ獎勵スルタメニハ別ニ後方部隊アルトキ

4 砲兵ニ對シ僅少時間ニ之ヲ撲滅セムトスルトキ

5 收容部隊ニ任セラレタルトキ

陣地占領ノ要領

退却

尙ホ陣地ヲ占領スルニハ射界廣濶ニシテ射撃ノ威力ヲ最も多ク發揮スルヲ得且敵ニ對シ遮蔽シ成ルヘク其ノ位置ヲ通視セラレザル事等其ノ配置ヲ地形ニ適合セシムルコト緊要ナリ通常所要ノ小隊ニ散開地域ヲ示シ爾餘ノ小隊ヲ後方ニ控置ス而シテ未ダ火線ニ就クヲ要セザル間ハ遮蔽ヲ主トシ所要ノ監視兵ヲ出シ警戒スヘシ何レノ場合ニ在リテモ前方及側方ニ斥候ヲ派遣シ又タ必要ナル地點ノ距離ヲ測定シ之ヲ標示スルヲ要ス
退却ヲ爲スニハ全線同時ニ退却スルヲ有利トシ時トシテハ散兵線ノ一部ヲシテ敵ヲ抗拒セシメ以テ他ノ部ノ退却ヲ掩護スルコトアリ

尙援隊ヲ有スルトキハ成ルヘク側方後ノ地點ヲ占領シ射撃ヲナシ以テ前線ノ退却ヲ收容セシムルヲ利トスルコトアリ

退却ハ秩序ヲ保テ整然トシテ行ヒ且ツ號令ナクシテ駈歩ヲ爲スヘカラズ此レ退却ハ往々敗走ニ陥リ易ク駈歩ヲ用フル時ハ殊ニ然ルヲ以テナリ

此ノ際幹部ハ特ニ部下掌握ニ勉ムヘシ

戰鬪ニ於ケル幹部ノ任務

中隊長ノ職責

中隊長ノ職責トシテハ散開スヘキ兵力、前進ノ區署ヲ決定シ射撃目標ヲ示シ距離ヲ測リ照尺ヲ定メ、射撃開始ヲ

小隊長ノ職責

命シ常ニ敵情及比隣部隊ノ動作ニ注意シ以テ中隊長ノ運動及射撃ヲ適切ナラシムヘシ

小隊長ノ職責ハ戰鬪ノ指揮ニ關シ中隊長ヲ補佐シ其ノ意圖ヲ確實ニ其ノ小隊ニ實施セシムルヲ以テ主要ノ任務トス又タ所要ニ應ジ中隊長ノ號令ヲ復令シ其ノ分隊ヲ誘導シテ射撃ニ便ナル位置ニ部署シ要スレバ小隊長ノ射撃目標ヲ示メシ指導ニ便ナル地ニ占位シ各部隊ハ適宜ニ其ノ位置ヲ占ムルヤ兵卒ハ能ク射撃ノ諸法式ヲ守ルヤ否ヤヲ監視シ又タ常ニ敵情ニ注意シ彈著ヲ觀測シテ中隊長ニ報告シ攜帶彈藥數ヲ顧慮シテ射撃ノ應用ヲ適切ナラシメ隣接小隊ト協同スルコトヲ勉ム又戰況ニ應ジ要スレバ小隊長

分隊長ノ職責

ハ獨斷ヲ以テ射撃ノ指揮ヲナシ散兵線ノ運動ヲ規定ス
 分隊長ノ責務トシテハ小隊長ヲ補佐シ號令普及ヲ以テ主
 要ノ任務トス、故ニ分隊長ハ所要ニ應ジ中隊長小隊長ノ
 號令ヲ復令シ、其ノ分隊ヲ誘導シテ射撃ニ便ナル位置ニ
 就カシメ常ニ敵情ニ注意シ、兵卒能ク地物ヲ利用シ正シ
 ク照尺ヲ裝スルヤ、目標ノ撰定宜シキヤ、精密ニ照準シ
 沈著ニ射撃スルヤ、彈藥ヲ浪費セザルヤ、能ク指揮者ニ
 注意スルヤ等ヲ監視スヘシ又タ必要ト認ムレバ自ラ火線
 ニ加リ射撃ヲ行フ
 尙屢々小隊長ニ代リテ小隊ヲ指揮スルコトアリ

戰鬪間兵卒ノ心得

戰鬪間兵卒ニ要求スベキ事項

戰鬪ハ行軍及劇動ヲ爲シ且ツ缺乏ニ堪ヘタル後始マルヲ
 常トス、而シテ數晝夜ニ亘ルコト多シ故ニ兵卒ハ勇猛沈
 著ニシテ自信ト忍耐トニ富ミ歩兵戰鬪ノ慘烈ナル感情ニ
 克チ以テ戰鬪ノ要求ヲ充足シ得ザルヘカラズ
 兵卒ハ敵ノ火力熾ニシテ死傷極メテ多キ時ト雖從容自若
 トシテ事ニ當リ決シテ逡巡スヘカラズ凡ソ疑懼退走ハ敗
 滅ニ陥リ猛烈果敢ナル前進ハ常ニ勝利ヲ得ラルヘキコト
 ヲ銘肝スヘシ
 防禦ニ當リテハ專心其ノ位置ヲ固守シ決シテ動搖スヘカ

前進間兵卒ノ銘肝スベキ事項

負傷シテ戦
闘ニ堪ヘサ
ルトキノ動
作

ラズ敵兵愈々接近スルニ從ヒ我が火器ノ殺傷力益々多キ
事ヲ確信シ泰然トシテ逆襲ノ時機ヲ待ツベシ若シ彈丸ヲ
射盡シ又タハ敵ノ重圍ニ陥リタル時ハ自己ノ銃劍ニ信賴
シ最後ノ勝利ヲ求ムルコトヲ勉ムヘシ
負傷シテ戦闘ニ堪ヘザル兵卒ハ其ノ所有スル彈藥ヲ戰友
ニ渡シ上官ノ命ヲ待チテ徐ロニ戦線ヨリ後クモノトス

第二編 銃及射擊學

第一章 銃

銃ノ名稱

各部ノ名稱ヲ大別シテ左ノ五部トナス

- 一、銃身
- 二、銃尾機關
- 三、銃床
- 四、銃鍊
- 五、銃劍
- 一、銃身

銃身ハ暗色ニ染烘シタル鐵部ノ細身ヲ云ヒ藥室、照尺、照星ノ名稱ヲ含有ス

藥室 ハ銃尾ニアリテ裝填スル時遊頭自在ニ出入スル部ヲイフ

照尺 ハ照尺坐ヲ以テ銃身ヲ包圍シ遊標及表尺飯照門ヲ有ス

イ表尺飯ハ發條ニ依リ起伏ス「4、5、6、7、8」等ノ數字ハ距離ヲ示ス「4」トアルハ四百米トシ他ハ之ニ準ズ

口遊標ハ表尺飯ヲ上下シ照尺ヲ裝スル時用フルモノトス

ハ照門ハ照準ノ時用フルモノニシテ第一、第二、第三ノ照門アリ第一照門ハ三百米、表尺起立セシトキ其ノ方窓ノ下部ニアル照門ハ四百米、最上部ニアルハ二千米ニ相當ス

照星 ハ照星坐及照星頂ヲ有シ銃身ノ上部ニアリ照星坐ヲ以テ銃身ヲ包圍ス
照星頂ハ照星ノ頂ヲ云ヒ照準スル時照門ヨリ通視ス

二 銃尾機關

銃尾機關ハ銃身ト同シク暗色ニ染烘シテ銃尾ニアリ尾筒遊底ノ二ニ大別ス

尾筒 ハ遊底及彈倉機ヲ裝置スル所トス

遊底 ハ白色ニシテ左ノ名稱ヲ有ス

1 遊頭 (抽筒子ハ遊頭ノ右方、蹴子ハ左ニアリ)

2 槓杆

3 圓筒 内ニ左ノ機關ヲ包藏ス

4 擊鐵

5 副鐵 (副鍊鈎ヲ有ス)

6 擊莖

7 擊莖發條

8 擊莖駐螺

彈倉機ハ銃身ト同色ニシテ彈倉、受筒飯、彈倉發條

彈倉底飯ノ名稱ヲ有ス

三 銃床

銃床ハ木製ニシテ全部ヲ塗漆ス而シテ左ノ名稱アリ

1 銃把

2 床尾

3 縱溝

4 木被

5 床嘴

6 床尾鐘

四 銃鍊

銃鍊トハ左ノ機關ヲ總稱シタルモノニテ銃身ノ如ク暗色

ニ染烘シタルモノナリ

1 上帶 同發條

2 下帶 同發條

3 用心鐵

4 床冠

5 床尾鉞

6 床尾翻環

7 擲杖

8 引金

五 銃劍

銃劍ニハ左ノ名稱ヲ有ス

1 劍身

2 劍柄

3 劍鞘

附屬品

一 銃口蓋

二 洗管

三 轉螺器

四 負革

銃ノ分解及結合順序

一般ノ分解ハ左ノ順序ニ從フベシ

- 一 負革
 - 二 遊底……分解順序
 - 三 擲杖
 - 四 上帶
 - 五 彈倉底飯 同發條 及ビ受筒飯
 - 六 用心鐵
 - 七 彈倉
 - 八 下帶
 - 九 木被
 - 十 銃身
- 結合法ハ分解ト反對ノ順序ヲ以テス

- 一 遊頭
- 二 擊莖駐螺
- 三 副鐵
- 四 擊莖同發條
- 五 擊鐵

銃ノ拭淨法

銃ノ拭淨法ハ外物ノ感觸ニ依リテ發生スベキ百般ノ障碍ヲ豫防スルニ在リ之レガタメ能ク塵埃ヲ拂ヒ汚物ヲ拭ヒ濕氣ヲ去リ發鏽ヲ防キ以テ原形ヲ永遠ニ保持スルコトヲカメサルベカラズ

銃身其他染烘シタル部分ハ之ヲ摩擦シテ白色ニ爲スヲ禁ズ

總テ金屬部ニ鏽ヲ生ゼシムルハ最モ忌ムベキコトトス若シ發鏽セシ場合ハ速ニ之ヲ除去スベシ假令微鏽ト雖之ヲ忽ニスル時ハ益々腐蝕スルニ至ル

拭淨ニ用フル油ハ純精ナルモノヲ撰擇スベシ而シテ普通
拭淨法ニハ白絞油ヲ用ヒ防鏽用ニハワゼリン 又ハ鑛
油ヲ用アルヲ良トス然レドモ同部分ニ異ル二種ノ油ヲ交
互ニ塗抹スベカラズ
拭淨法ニ普通拭淨法及發射後拭淨法ノ二アリ

イ 普通拭淨法

遊底ヲ開キ銃身ノ内外ヲ軟布ニテ拭ヒ僅ニ油ヲ塗ル、尾
筒ノ内外ヲ掃除スルモ又同ジ
凡テ鐵具ノ外面ハ油ニ浸シタル布片ヲ以テ拭フモノトス
銃床ハ乾キタル布片ヲ以テ拭ヒ若シ手垢等ノ附著シテ容
易ニ除去シ難キ時ハ揮發油又ハ石油ニ浸シタル布片ヲ以

テ拭フヲ可トス

ロ 發射後ノ拭淨法

發射セシ銃器ハ成ルベク速カニ拭淨スベシ時間ヲ經過ス
レバ拭淨困難トナルモノナリ
銃腔ヲ拭淨スルニハ遊底ヲ除キ拗杖ノ一端ニ洗管ヲ接續
シテ布片ヲ附著シ之ヲ銃ヨリ送入シ徐ニ上下スベシ而シ
テ腔内僅ニ光輝ヲ發スルニ至レバ布片ヲ去リ更ニ油ニ浸
シタル布片ニ換へ上記ノ如クナシ塗油スベシ
藥室部ノ後端遊頭室、蹴子溝及抽筒子溝ハ藥室掃除器ニ
布片ヲ卷キ徐ニ掃除シ後僅ニ塗油スベシ上記ノ外總テ普
通拭淨法ニ準ジテ行フモノトス

第二章 射擊

凡ソ步兵教練ヲ行フニ當リ射擊術ニ通セザレハ單ニ運動ヲナスノミニテ之ヲ眞ノ教練ト云フベカラズ即チ眞ノ教練トハ銃ヲ確實ニ取扱ヒ射擊ノ方法ヲ誤ラズ距離ノ遠近目標ノ大小トニ依リ射擊効力ノ有無ヲ判斷シ全ク實戰ニ於ケルガ如ク射擊ノ効力ヲ顯スベキモノナルノミナラズ若シ斯ク爲サザルキハ教練ハ無意味沒趣味ニ終ルベシ、然ルニ往々不適當ナル射擊ヲ用フルモノ或ハ無謀ノ姿勢ヲナスモノアリ之レ射擊効力ヲ無視スルト云フヨリハ寧ロ射擊術ヲ知ラザルモノト云フベキ

カ之レ射擊術ニ熟達セバ適當ナル照尺ヲトリ身體ヲ遮蔽セザルベカラザレバナリ
左ニ射擊學ノ大要ヲ記シ以テ射擊効力ヲ收ムル素因ヲ養フ資ニ供セントス

彈道及照準

定義

彈道 トハ彈丸ノ空氣中ヲ經過スル線路ヲ云フ
初速 トハ彈丸ノ銃口ヲ離ルルニ當リ有スル所ノ速率ヲ云フ
射線 トハ銃身軸ノ延線ヲ云フ

射角 トハ射線ト水平線ト交リテナス角ヲ云フ
 射距離 トハ銃口ヨリ命中點ニ至ル距離ヲ云フ
 射面 トハ射線ニ通ズル垂直面ヲ云フ
 照準線 トハ照門ノ中央ヨリ照星頂ヲ通視スル直線ヲ云フ
 照準點 トハ照準線ノ達スル點ヲ云フ
 照準角 トハ射線ト照準線ト交テ成ス角ヲ云フ、故ニ照準線水平ナルトキハ照準角ハ射角ニ等シ
 某距離ニ於ケル彈道ノ高度 トハ彈道ノ某點ヨリ照準線ニ至ル垂直距離ヲ云フ其ノ最大垂直距離ヲ有スル彈道ノ一點ヲ最高點ト云フ

標心點 トハ彈道ノ再ビ照準線ニ交會スル點ヲ云フ
 標心距離 トハ銃口ヨリ標心點ニ至ル距離ヲ云フ
 最高點ハ彈道ヲ二部ニ分ツ其ノ前部即チ最高點ト銃トノ間ヲ彈道ノ昇部ト云ヒ後部即チ最高點ト標心點トノ間ヲ彈道ノ降部ト云フ
 發射角 トハ彈道ノ昇部ト照準線ト交テ成ス角ヲ云フ
 落角 トハ彈道ノ降部ト照準線ト交テ成ス角ヲ云フ

彈道ノ形狀

彈丸ノ形狀ハ速率方向重力空氣ノ抗力及彈丸ノ自轉動ニ關係ス

彈丸初速ノミニ從フトキハ射線ノ方向ニ直進シ同時間ニ同距離ヲ經過スベシト雖モ彈丸一タビ銃口ヲ離ルルトキハ忽チ他ノ力ニ從屬ス即チ重力及空氣ノ抵抗力之ナリ重力ハ飛行スル彈丸ヲ地面ニ落下セシムルモノニシテ其落下尺度ハ經過時間ト共ニ増進ス之ト同時ニ彈丸ハ空氣ノ抵抗力ヲ受ケ絶ヘズ其ノ速率ヲ減耗シ同距離ヲ經過スルニ漸次長時間ヲ費スニ至ル以上ノ理ナルヲ以テ彈道ハ曲線狀ヲナシ其ノ彎曲ノ度ハ發點ヲ遠カルニ從ヒ倍々甚シ故ニ某距離ニ在ル所ノ標的ヲ射擊セント欲セバ彈力ノ標的ニ達スル時間ニ於テ落下スベキ尺度ニ等シク射線ヲ標

的ノ上方ニ向ケサルベカラズ空氣ノ抵抗力ヲ減殺シ速率ノ減耗ヲ防グニハ彈丸ノ形狀ヲ圓筒蛋形トナシ絶ヘズ其ノ尖頭ニ前方ニ維持セシメザル可ラズ銃身ニ腔線ヲ施スハ彈丸ヲシテ其ノ長軸ノ周圍ニ自動轉ヲ起サシメンガタメナリ彈道ノ最高度ハ射距離ノ中央ニアラズシテ稍々前方ニ在リ其所以ハ彈道ハ發點ヲ遠カルニ從ヒ倍々彎曲スルヲ以テナリ落角ハ常ニ發射角ヨリ大ナリ標心距離ハ照準線ノ水平ナル場合ニアリテハ射距離ニ等

シ而シテ此ノ距離ハ射擊ノ尋常範圍内ニ於テハ（大約十五度以内）照準線ノ傾斜ニ關係セズ

照準

銃ヲ照準スルトハ設クル所ノ標的ニ彈道ヲ導クノ謂ヒナリ、之ガ爲メニハ照準機ヲ用ヒ銃身軸ヲシテ正シク射面中ニ在ラシメ且ツ適當ノ射角ヲ得セシム
照準線銃身軸ニ平行スルトキハ標的ノ上方ヲ照準セザルベカラズ、斯クノ如キハ照準命中共ニ實ニ困難ニシテ殆ド爲シ得ベカラザル事トス、故ニ照準點ヲ標的ノ中央或ハ其ノ下方ニ撰定スル事甚緊要ナリ、之レガタメニハ實

驗ニ依リテ豫メ各射距離ニ適當スル照門ノ位置ヲ照尺上ニ畫定シ置クヲ要ス
照尺上ノ尺度ハ右ノ便ヲ得セシメムガ爲メ刻定セシモノナリ

射擊ノ性能

一般ノ性能

射擊ノ性能ハ銃器及彈藥ノ精否ニ原因シ彈道ノ形狀彈丸ノ速率及偏避ノ大小ニ關係ス
彈道ハ直線狀ニ近ツクニ從ヒ益々價值アリ之ヲ彈道低伸ト云フ

彈道低伸

危險界

存速

低伸ハ軍用銃ノ首要ナル一性能ニシテ危險界ノ長短及跳
 彈ノ効力ハ專ラ之ニ基因スルモノトス
 危險界ハ彈道ノ目標ヲ超過セザル水平地ノ長サナリ
 危險界ノ短長ハ銃ノ有スル低伸ノ外尙ホ射距離目標ノ大
 小及土地ノ傾斜ニ從ヒ増減ス、近距離ニアリテハ射手ノ
 姿勢及照準點ノ位置ニ關シテ多少變化スルモノトス
 彈道ノ某點ニ於ケル彈丸ノ速率ヲ存速ト稱ス、侵徹力ハ
 主トシテ此存速ニ關ス

偏 避

射擊ハ極メテ精密ニ施行スルモ第二ノ彈丸ヲシテ確實ニ

第一發ノ彈丸ト同一點ニ命中セシメント欲スルハ望ムベ
 キ事ニアラズ其ノ理由トスル所ハ偏避アルヲ以テナリ
 偏避ヲ起ス原因ハ主トシテ射手ノ巧拙ニ關シ其他銃器及
 彈藥製造ノ精否、銃器手入ノ良否、空氣ノ抗力、光線等
 モ又タ關係ヲ及ボス
 偏避ニ二様アリ一定偏避、不定偏避、之ナリ
 一定偏避 トハ一射擊間ニアリテハ殆ド一定ナル偏避ヲ
 提起シ數發射擊ノ後ハ修正シ得ルモノナリ
 不定偏避 トハ一射擊間ニ於テ彈著點ノ一發每變易シテ離
 散シ射擊間修正シ能ハザルモノナリ
 銃器及彈藥ノ製造ヲ如何ニ精密ニスルモ悉ク等形、等質

等量タラシムル事ハ難シトス而シテ其ノ精否ハ初速及發射角ヲ變化セシム

銃器製作上ヨリ起ル偏避ハ通常某一定ノ方向ニ在ルモノトス即チ一定偏避ナリ

腔線ノ磨滅及著劍射擊ヲナス時ハ又一一定偏避ヲ生ズ

腔内ノ汚穢錆鏽及擊發機ノ過強等ハ不定偏避ヲ生ズ

製造後久シク年月ヲ經タル彈藥ハ其ノ裝藥ノ變化ニ依リ一定偏避ヲ生ズ

側方ヨリ來ル風ハ彈力ヲシテ側方ニ偏セシム而シテ其ノ偏移スル度ハ射距離及風力ノ増加スルニ從ヒ益々甚シ

前方或ハ後方ヨリ來ル風ハ射距離ヲ増減ス

斜風ハ射距離及方向ヲ併セテ偏避ス

空氣ノ濃淡ノ抗力ヲ變ジ射距離ヲ増減ス概テ射距離ハ盛夏ニ於テ増加シ嚴冬ニ於テ減縮ス

照星光線ニ直射セラルル時ハ射手照星ヲ見ル過大ニ失シ不識不知照門内ニ見出スノ度過低トナリ射距離ヲ減縮ス

曇天曉暮等總テ照星ヲ見ル明瞭ナラザルトキハ勢ヒ過高ニ見出シ射距離ヲ増伸ス

側方ヨリ光線ヲ受クルトキハ其ノ光輝スル一方ハ之ニ反スル一方ヨリモ過大ニ見ユルヲ以テ照星ヲ照門ノ一方ニ偏倚セシム故ニ彈著ハ暗黒ナル一方ニ偏避ス

射手ノ照準誤差特ニ爆音及反撞ニ對スル恐怖ヨリ生スル

引金ノ暴作用ハ著シク不定偏避ヲ生ズ
照準ノ際發生シ易キ諸種ノ誤差ハ照星ノ顯出過高、過
低、一側ニ偏倚シ、銃ヲ傾クル等ナリ

偏避ハ經過時間ノ増加スルニ從ヒ益々増大ス故ニ射撃ノ
効力ハ射距離ノ遠大ナルニ從ヒ愈々減少スルモノトス
射撃ノ速度ハ大ニ偏避ニ關係ス即チ急射撃ニアリテハ射
手ノ視力ヲ害シ筋力ヲ疲勞セシメ隨テ偏避ヲ増大ス

彈丸ノ散布

彈丸ハ發射毎ニ偏避アルヲ以テ假令同一點ヲ照準シ極メ
テ精密ノ射撃ヲ行フモ彈丸各彈道ヲ異ニシ恰モ束藁ノ如

集束彈道

水平集合彈
著

被彈地

平均點
平均彈道

キ曲圓錐形ヲ爲ス之ヲ集束彈道ト云フ
集束彈道射面ニ直交スル平面ト交截スルトキハ種々ノ被
彈面ヲ生ズベシ之ヲ垂直或ハ水平集合彈著ト稱シ或ハ又
目標所在地ニ於テハ單ニ被彈地ト稱ス
被彈面ノ形狀ハ通常楕圓形ヲナシ距離ノ遠隔スルニ從ヒ
益々増大ス

集合彈著ノ中心ヲ平均點ト云ヒ平均點ヲ通過スル彈道ヲ
平均彈道ト云フ
發射彈數夥多ナルトキハ其ノ彈著ハ平均點ニ近ツクニ從
ヒ益々稠密ナルモノトス
集束彈道益々狹小ニシテ集合彈著愈々縮少スレバ射撃ハ

從ツテ精密ナルモノトス
 多數ノ銃ヲ同時ニ使用スル時ハ金質木材及製造法ノ避ク
 ベカラザル差異ヨリシテ各銃各異ノ偏避アルヲ免レズ故
 ニ射手ハ假令精密ニ射撃スルモ彈道ノ集束ヲ増大シ從ツ
 テ集合彈著ハ著シク擴張ス然レドモ其ノ彈丸散布ノ景況
 ハ平均點ノ周圍ニ密集スル事猶單一銃ノ射撃ニ於ケルガ
 如シ

村田連發銃ノ性能

初速ハ銃口前二十五米ニ於テ平均五百九十三米ナリ而シ
 銃口ヲ離ルル瞬時ハ六百十二米ナリ

最大射距離ハ概テ三千二百米ニシテ其ノ射角ハ凡ソ三十
 度ナリ

反撞速度ハ二米四四ナリ

彈道低伸ノ度ハ騎兵（高サ二米五十珊）及立姿歩兵（高
 サ一米六十五珊）ハ射距離五百米以内、膝姿歩兵（高サ
 一米）ハ四百米以内、伏姿歩兵ハ三百米以内ハ凡テ危險
 界ナリ

四百米以下ノ距離ニ於ケル彈丸ノ侵徹力ハ物質ニ應ジ距
 離ノ増加スルニ從ヒ左ノ如ク増減ス

- 一 尋常ノ積土 一米四十乃至一米十八
- 二 砂 三十乃至五十珊米

三 乾燥セル松 五十乃至二十七珊米

四 厚サ六密理米ノ鐵板ハ二百五十米、鋼板ハ百米以

内ノ距離ニ於テ侵徹ス

連發銃ノ彈丸ヲ防遏スルニ完全ナル胸墻ノ築設ハ積土ナ
レバ一米五十、砂或ハ松材ヲ用フレバ五十珊米以上ノ厚
サヲ要ス

射擊ノ實施

熟練ナル射手トハ射擊ニ臨ミ敏捷ナル位置ノ撰定、地物
ノ利用、距離測量ノ精密、裝填ノ迅速、照尺裝法ノ正確
照準時間ノ短少、精神ノ沈著ナル等凡テ射手ノ注意スヘ

照準線ヲ眼
ノ高サニ導
ク法

キ要件ヲ具備スルヲ云フ

臂上射擊ニ於テ勉メテ銃ノ震動ヲ減センガタメニハ最初
照準線ヲ少シク下方ニ導キ漸次之ヲ高上シテ照準點ニ向
ハシム可シ

側方ニ移動スル目標ニ在テハ距離及目標ノ速度ニ從ヒ絶
ヘズ其ノ前方ヲ照準シツツ目標ノ運ニ從フモノトス例ヘ
バ一分時ニ九十米ノ速度ナレバ二百米ノ距離ニ於テ目標
ノ中心ヨリ人身幅ノ約一倍半前方ヲ照準スベキガ如シ
照準線ヲ眼ノ高サニ導クニハ唯肩ヲ少シク高上スベシ床
尾飯ヲ上下スルヲ要セズ、八百米ニ至リテ肩ハ大抵自然
ノ位置ニアルモノトス是ヨリ以上ノ距離ニアリテハ漸ク

射擊ノ限界

肩ヲ低下シ或ハ右臂ヲ體ニ密著シ床尾鉞ヲ臚内ニ當テ銃把ヲ一層緊握シ左手ヲ用心金ニ近ケ射手ノ體格ニ應ジテ左掌ヲ内方ニ向クルモ妨ゲナシ然レトモ頭ハ自然ノ位置ニ在ルヲ要ス

獨立射擊ニ於テ効力アル所ノ限界左ノ如シ

- 二百米以内ニ在リテハ都テノ目標
- 三百米以内ニ在リテハ孤立膝姿兵
- 四百米以内ニ在リテハ孤立立姿兵及二人併列膝姿兵
- 五百米以内ニ在リテハ立姿群及孤立騎兵

但シ距離ヲ既知スルカ或ハ照準容易ナル場合ニ在リテハ二人併列膝姿兵ハ五百米ニ又々最後ノ限界ハ六

部隊射擊ノ有効被彈地

百米ニ延伸スルヲ得

部隊射擊ノ有効被彈地ハ中距離（稱呼ヲ簡易ニスルタメ六百米以内ヲ近距離、六百乃至千米ヲ中距離、千米以上ヲ遠距離ト云フ）以上ニ在テ照準線ト平行スル地上ニ於テハ標心距離ノ前方五十米ニ始マリ後方五十米ニ終ハル若シ百米ノ差アルニ照尺ヲ混用スル時ハ即チ二百米ノ被彈地ヲ成形ス

照準線ノ上方或ハ下方ニ傾斜セル土地ノ射擊ニ於ケル被彈地ノ縦長ハ目標所在ノ地ト照準線ト爲ス角度ニ隨ツテ増減ス然レドモ集束彈道ノ橫隊ニ對スル命中ノ公算ハ常ニ同一ナリ、縱隊ニ對シテハ然ラズ照準線ノ上方ニ傾斜

部隊射擊ノ効力

スル土地ハ平行或ハ下方ニ傾斜スルモノヨリモ通常命中ノ公算ヲ大ナラシム

部隊射擊ノ効力ハ距離ノ増加スルニ從テ減少ス若シ距離及目標所在ノ地形ヲ論セザル時ハ其ノ効力ハ主トシテ目標ノ高サ幅及疎密ニ關係シ大氣ノ交感モ又タ多少ノ影響ヲ及ホスモノトス即チ概左ノ如シ

中距離ニ在リテ中隊縱隊ノ第一部隊ヲ超過スル彈丸ハ其ノ後方諸部隊ニ命中スル事甚少シト雖遠距離ニ於テハ彈道ノ彎曲漸ク大ナルヲ以テ後方部隊ハ損害ヲ受クル事多シ概シテ縱隊ハ同人員ノ橫隊ヨリモ損害多キガ如シ

低キ目標ニ對シテハ近距離ニ非サレバ好成績ヲ得難シト雖モ高キ目標ハ中距離ニアリテモ尙ホ充分ノ効力アルモノトス此ノ限界ヲ超フルトキハ命中ノ公算上多量ノ彈藥ヲ要ス

故ニ遠距離ニ在リテハ高幅縱長共ニ大ナル有利ノ目標ニ對スル等ノ例外ノ場合ニアラザレバ射擊セサルモノトス

距離測量

距離測量ハ極メテ緊要ノモノニシテ其ノ熟否ハ照尺ノ用法及照準點ノ撰定ニ關係シ爲メニ射擊ノ効力ニ影響スル

一著大ナリトス

距離ヲ測定スルノ方法ハ步測、目測、音響ニ依ル測法等種々アリ多クノ場合ニ於テハ目測法ニ依ラザルベカラズ故ニ目測法ニハ最モ熟練スルヲ要ス

一 步測

步測トハ歩ヲ以テ距離ヲ測ルヲ云フ
步度ノ長短ハ各人身體ノ大小ニ依リテ異ル故ニ地上ニ於テ精密ニ測定セル距離ヲ數回往復シ其ノ步數ヲ平均シ以テ各自ノ步長ヲ定ムルヲ可トス而シテ步數ヲ一定スルニハ初メ十米及百米ノ距離ヲ何歩ニテ經過スルヤヲ試驗シ之ヲ一定シ置クヲ要ス

步測ヲナスニハ一步毎ニ算スルナク、二步（之ヲ復歩ト云フ）ヲ以テ壹ト算ス、復歩トハ左足ヨリ踏出シ右足ノ地ニ著ク時一ト唱へ、又右足ノ地ニ著ク時二ト唱フルガ如ク續行ス

既ニ百米突ノ距離ヲ踏測シ得ルニ至レバ更ニ以上ノ距離ヲ步測ス此ノ場合百米毎ニ一指ヲ屈シ、百米ニ滿サル點マデ目標ニ接近シタルトキハ既測ノ距離ヲ記憶シ更ニ十米毎ニ一指ヲ屈シ十米以内ト思料スル距離ニ至レバ其ノ端數ヲ測リ最初記憶シタルモノニ加算シ遂ニ全距離ヲ測リ得ルモノナリ、步測ノ精度ハ百米ノ距離ニ於テ其ノ誤差二米以内ナルヲ要ス

二 目測

目測トハ肉眼ヲ以テ測ルヲ云フ

目測ヲ爲スノ法ハ最初精密ニ測リタル某距離ニ於テ行ヒ熟達シ其ノ距離ヲ記憶シタル時ハ既知距離ヲ以テ他ノ目標距離ニ比較スルニ基クモノトス

目測ハ土地ノ形狀天候及時刻ニ因リ差異ヲ生ズ而シテ其ノ一般ニ測量スルモノハ目標太陽ニ面スル時、天氣晴朗ナル時、水平地、水面、明瞭ナル物體等ニシテ遠ク測ルハ炎熱ノ時、太陽目標ノ背後ニアルトキ、曇天、濃霧、森林内等ノ物體之ナリ

目標視像ノ大小ニ基キテ距離ヲ測量スルニハ左ノ法ヲ用

フ

銃ヲ照準ノ位置ニ取り照星ノ跌坐上ニ於ケル高サト同高ニ見フル立姿兵ハ三百米、騎兵ハ四百五十米ノ距離ニアルモノトス

三 音響測量

音響測量ノ基ク所ハ凡テ音響ハ一秒時間大約三百三十三米ヲ飛走スルヲ以テ銃砲ノ硝煙ヲ見テ其ノ音響ノ耳ニ達スル時間ヲ測ルニアリ

但シ光線ハ能ク一秒時二十八萬六千英里ノ遠キニ達スルヲ以テ此ノ時間ハ計算セザルモ實際ニ差誤ヲ生セザルモノトス

音響測量ノ精度ハ熟練ナルモノニアリテハ千米ノ距離ヲ測ルニ誤差十米ヲ超ヘザルモノトス

第三編 野外勤務

第一章 命令及報告

種類

陣中ニ用ユル命令ハ作戰命令ト日日命令ノ二種トス尙ホ此他訓令ナルモノアリ命令ノ範圍ニ屬ス
作戰命令トハ直接作戰ニ關スル命令ニシテ某師團命令、某旅團命令又ハ前衛命令、枝隊命令等ト云フ
日々命令トハ軍隊ノ内務人事等直接作戰ニ關セザル命令ニシテ某師團（又ハ旅團）日々命令トイフ
訓令トハ唯其目的ヲ示スノミニシテ其ノ施行ノ方法ハ全

然受令者ニ委任アルモノヲ云フ
報告トハ一ノ任務ヲ有スルモノ其ノ任務ノ結果ニツキ又
ハ新タニ見聞シタル情況ニ關シ授命者及其知ルヲ必要ト
スル上官ニ上申スルノ謂ニシテ任務ニヨリテ種々アリ
何々斥候報告、某小哨長報告等ノ如シ

記載方

通信ニハ多ク報告紙ヲ使用ス若シ定規ノ用紙又ハ報告紙
ナキ時ハ手簿ノ紙片ヲ以テ之ニ代用スルヲ得ベシ
命令ハ簡明確實ニシテ受令者ノ器量ニ適應セザルベカラ
ズ

報告ヲ記スルニハ報告者自ラ目撃セシ事項、他人ノ見聞
セシ事項、或ハ唯推測ニ係ル事項トヲ判明區別スベシ、
又必ズ自ラ爲サント欲スル處置ヲ附記スヘシ
命令報告ノ長キモノハ項ヲ分チ數字ヲ附シ列記スルヲ可
トス殊ニ緊要ナル事項特ニ報告ニアリテハ受領者ノ第一
ニ知ラント欲スル件ハ之ヲ最初ニ記載シ、一事件ニ關ス
ルモノハ一項中ニ記載スヘシ
命令及報告ハ爲シ得ル限り文章ヲ簡單ニシ奇異ノ語ヲ用
フルヲ避ク可シ之レ文章ヲ簡單明瞭ニシ且了解シ易カラ
シメン爲ナリ而シテ記載ノ後之ヲ再讀シ且受領者ニ於テ
如何ニ了解スベキカヲ考察スル片ハ往々文章ノ字句ヲ改